

エンシュウムヨウラン *Lecanorchis suginoana* (Tuyama) Seriz.

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

ラン科 Orchidaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧II類 (VU) : 環境省カテゴリ なし]

1. 種の解説

菌従属性栄養の多年草。高さ15~25 cm。葉は退化して鱗片状である。花期は4~5月。茎頂に数個の黄褐色の花を総状につける。唇弁は左右の側裂片が丸く、周辺部に鋸歯がなく、黄色の毛がある。蕊柱先端が切形である。花柄先端が膨らむ。近縁種のウスギムヨウランは花期が6月、唇弁の毛の色が紫褐色で、縁の毛に乳頭状の突起があり、蕊柱先端が3裂である。ムヨウランは高さが30cm以上あり、唇弁の縁の毛に乳頭状の突起がない。

2. 分布

日本固有種で、本州、四国に分布する。県内では西部に分布する。

3. 生育環境

山地のコナラやシイ類の林床に生育する。

4. 生育状況

産地は西部を中心に増加傾向にある。産量は散生していて多くはない。コナラ林の林床に多く生育する。

5. 減少の主要因と脅威

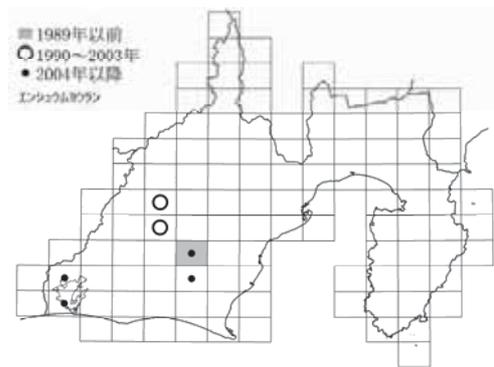
森林伐採(11)が主要因である。植生遷移(54)や撮影者の踏圧(51)も脅威である。

6. 保護対策

コナラ林の伐採を回避するとともに、植生遷移による環境の悪化を抑制することが重要である。(宮崎一夫)



掛川市 2014年6月1日 宮崎一夫



スズムシソウ *Liparis makinoana* Schltr.

(=スズムシラン)

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②③) 変更なし

ラン科 Orchidaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧II類 (VU) : 環境省カテゴリ なし]

1. 種の解説

多年草。高さ10~20 cm。葉は2枚で基部が葉柄に翼状に広く流れて茎を抱き、5~12 cm、鈍頭で縦脈が表に出る。花茎には稜があり、下の方から花を5~18つける。花期は6~7月。花は、萼は淡緑で、側萼片が糸状で唇弁の下にかくれる。花弁と唇弁は薄い紫褐色。

2. 分布

国外では朝鮮半島に、国内では北海道、本州、四国、九州に分布する。県内では伊豆、東部、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

温帯、暖帯の山地の林内に生育する。

4. 生育状況

各地に広く点在していた。園芸採取などで減少している。

5. 減少の主要因と脅威

山林伐採(11)による生育地の消失と園芸採取(41)が脅威である。

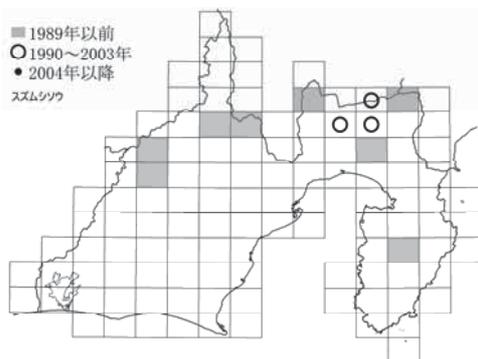
6. 保護対策

生育地の保護と園芸採取を防ぐために、産地情報の公開には慎重な配慮が必要である。

(西口紀雄)



小山町 2002年5月11日 杉野孝雄



フウラン (=フウキラン) *Neofinetia falcata* (Thunb.) Hu

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②③) 変更なし

ラン科 Orchidaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)]

1. 種の解説

常緑の着生する多年草。葉は厚い革質で、2~5 対接近してつき、横断面はV字形になる。花期は6~7月。花は白色で長い距が垂れて芳香がある。

2. 分布

国外では韓国(済州島)、台湾に、国内では本州(関東以南)、四国、九州、沖縄に分布する。県内では伊豆、東部、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

温帯、暖帯の自然林や社寺林の古木や岩上に着生する。

4. 生育状況

西部を中心に、中部、東部、伊豆に点在する。近年の確認は少ない。古木の伐採や園芸採取で減少している。

5. 減少の主要因と脅威

古木の伐採(11)と園芸採取(41)が減少の主要因である。

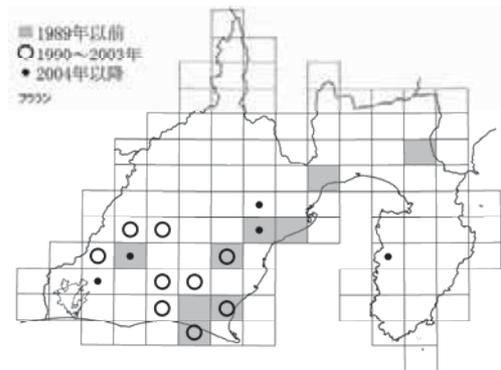
6. 保護対策

着生する自然林や社寺林の保護が必要である。園芸採取を防ぐために、産地情報の公開には慎重な配慮が必要である。

(西口紀雄)



浜松市 2019年8月4日 宮崎一夫



ヒメムヨウラン *Neottia acuminata* Schltr.

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

ラン科 Orchidaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)]

1. 種の解説

多年草菌従属栄養植物。高さ10~15 cm。根は針金様で短く上向きに束生する。茎は細く直径2 mm、赤褐色で膜質筒状の鞘状葉を3~4個つける。花期は7~8月。苞は卵形で長さ1~1.5 mm。花は淡褐色で倒立する。萼片と側花弁は卵状広披針形で長さ3 mm、反曲する。唇弁は三角状卵形で長さ3 mm、上方に位置する。近縁種のサカネランは茎が肉質で太く、直径4 mmあり全体が黄白色である。

2. 分布

国外ではロシア(サハリン、ウスリー、カムチャツカ)、朝鮮半島、台湾、中国に、国内では北海道、本州(中・北部)に分布する。県内では東部、中部に分布する。

3. 生育環境

亜高山帯針葉樹林下の落葉が堆積した腐植土に生育する。

4. 生育状況

富士山と南アルプスに生育している。産地は少ない。産量は少ない。目立たないために確認不足もあると思われる。

5. 減少の主要因と脅威

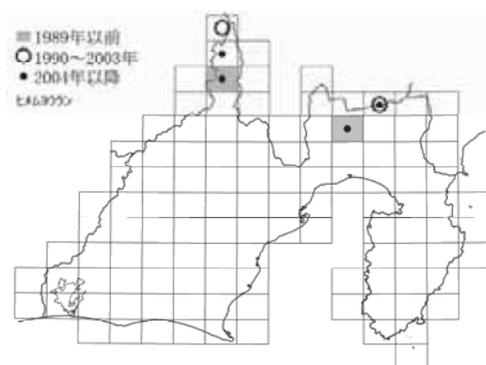
森林伐採(11)が主要因で、林道整備(24)や踏圧(51)も脅威である。

6. 保護対策

自然林の保全をする。生育の可能性があると思われる環境は、森林伐採や開発行為を慎重に行いたい。(宮崎一夫)



御殿場市 2015年5月26日 宮崎一夫



オノエラン *Chondradenia fauriei* (Finet) Sawada ex F. Maek.

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②③) 変更なし

ラン科 Orchidaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧II類 (VU) : 環境省カテゴリ なし]

1. 種の解説

多年草。高さ10~15 cm。根は太い紐状。葉は長楕円形で長さ5~12 cm、茎の基部に2個ある。花期6~8月。茎頂に白色の花を2~6個つける。苞は広披針形で長さ1~2 cm。萼片は長楕円形で長さ7~10 mm。唇弁はくさび形で3浅裂して喉部にW字形の黄褐色の斑紋がある。距は楕円形で長さ3~4 mm、基部でくびれる。近縁種のカモメランは葉が1個で唇弁にW字形をした黄褐色の斑紋がなく紅紫色の斑点がある。

2. 分布

日本固有種で、本州(中北部、紀伊半島)に分布する。県内では伊豆、東部、中部に分布する。

3. 生育環境

冷温帯の深山で日当たりのよい岩礫地の草地や尾根の岩場に生育する。

4. 生育状況

富士山周辺と安倍川流域の山地に生育する。産地は少ない。株数は狭い範囲に数株が開花している。登山道脇に生えていることが多く園芸採取される危険性が高い。

5. 減少の主要因と脅威

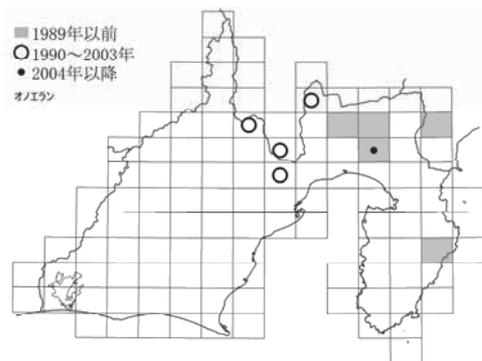
園芸目的による採取(41)が主要因である。植生遷移(54)や踏圧(51)も脅威である。

6. 保護対策

自生地を保護するとともに園芸採取を防ぐために、分布情報の公表には慎重な配慮が必要である。(宮崎一夫)



静岡市葵区八紘嶺 1997年6月15日 宮崎一夫



ウチョウラン *Ponerorchis graminifolia* Rchb. f.

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②③) 変更なし

ラン科 Orchidaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧II類 (VU) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧II類 (VU)]

1. 種の解説

多年草。高さ7~20 cm。塊根は球形。葉は2~3個あり互生して広線形で長さ7~12 cm、基部は茎を抱き、先は鋭尖する。花期は6~8月。花は紅紫色で多数を総状につける。萼片と側花弁は卵形で長さ5~6 mm。唇弁は3深裂して長さ13 mm、中裂片は楕円形。距は長さ13~17 mm。近縁種のニョホウドリは唇弁が3浅裂で中裂片は四角形である。

2. 分布

国外では朝鮮半島に、国内では本州、四国、九州に分布する。県内では伊豆、東部、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

温帯と暖帯の日当たりがよい岩壁に生育する。

4. 生育状況

産地は中部と西部に多い。産量は多くない。増殖技術が発達して、園芸採取は少なくなったと感じるが、安易に採取できる場所では株数が極端に少ない。

5. 減少の主要因と脅威

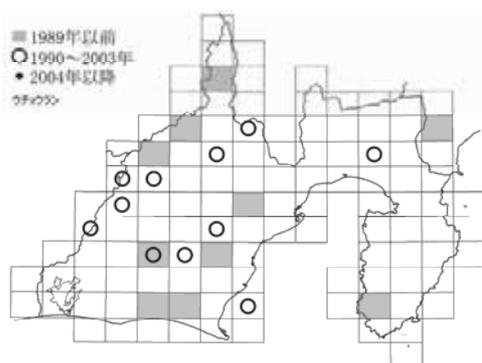
園芸採取(41)が主要因である。岩礫の崩壊(55)や植生遷移(54)も脅威である。

6. 保護対策

生育地の保護と園芸採取を防ぐために、産地情報の公表には慎重な配慮が必要である。(宮崎一夫)



浜松市 1999年7月4日 宮崎一夫



ニョウウチドリ *Ponerorchis joo-iokiana* (Makino) Nakai

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

ラン科 Orchidaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリ 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

多年草。高さ 10~35 cm。地下に多肉で扁球形の塊根がある。葉は2個前後つき披針形で肉質、長さ 3~8 cm。花期は 7~8 月。花は紅紫色で花茎の上部にやや一方方向に数個つく。唇弁は扇形のやや肉質で長さ 13~15 mm、萼片よりも長く目立ち、先は3浅裂して中裂片は少し大きく先が少しへこむ。距は筒状線形で長さ 15~17 mm、後方に突き出す。近縁種のウチョウランやヒナチドリは岩上や樹上に着生する。

2. 分布

日本固有種で、本州（中部地方、関東地方北部）に分布する。県内では中部（南アルプス）と東部（天子山系）に分布する。

3. 生育環境

亜高山帯の岩場や砂礫地の疎草地に生育する。

4. 生育状況

産地は少ない。産量はそれほど多くはない。

5. 減少の主要因と脅威

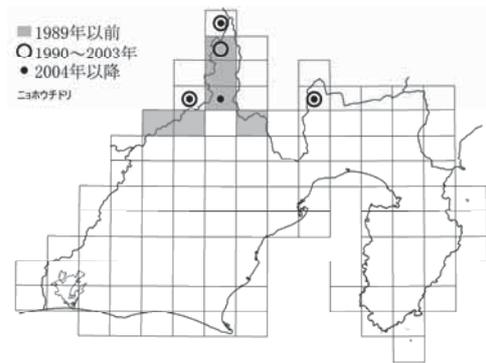
園芸目的による採取 (41) が主要因である。岩礫の崩壊 (55) と草地の植生遷移 (54) も脅威である。近年はシカによる食害 (52-1) も発生している。

6. 保護対策

園芸目的やマニアの採取を防ぐために、産地情報の公開は慎重な配慮が必要である。 (宮崎一夫)



静岡市 2011年7月17日 山崎由晴



ミズチドリ *Platanthera hologlottis* Maxim.

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②③) 変更なし

ラン科 Orchidaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリ なし]

1. 種の解説

多年草。高さ 50~90 cm。葉は線状披針形で 5~12 個が互生し、下方の葉は長さ 10~20 cm、上部の葉はしだいに小さくなる。花期は 6~7 月。花は純白色で多数を総状につけ、芳香がある。唇弁は舌状の倒卵形で長さ 6~8 mm。距は細く下垂して長さ 10~12 mm。近縁種のミズトンボは花が淡黄緑色で唇弁が十字状である。

2. 分布

国外では朝鮮半島、中国、ロシア（シベリア）に、国内では北海道、本州、四国、九州に分布する。県内では伊豆（細野湿原）と東部（小田貫湿原）に分布する。

3. 生育環境

温帯の湿地、湿原や沼畔に生育する。

4. 生育状況

産地は少ない。産量は多くない。

5. 減少の主要因と脅威

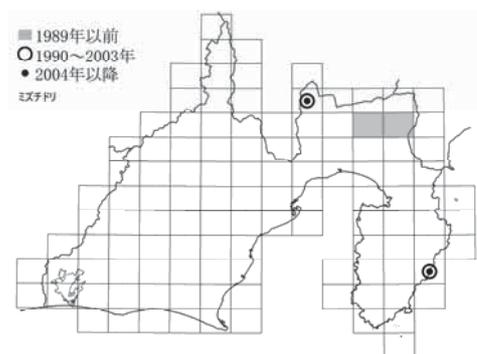
植生遷移 (54) が主要因である。園芸採取 (41) と乾燥化 (71) も脅威である。近年はシカによる食害 (52-1) もある。

6. 保護対策

湿地は多様な種が生育しているので、種の多様性を維持するためにも、植生遷移を抑制して保全管理することが重要である。 (宮崎一夫)



富士宮市 2014年7月23日 宮崎一夫



ツレサギソウ *Platanthera japonica* (Thunb.) Lindl.

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②③) 変更なし

ラン科 Orchidaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧II類 (VU) : 環境省カテゴリ なし]

1. 種の解説

多年草。高さ 40~60 cm。葉は数個が互生し長楕円形で長さ 10~20 cm、中脈が裏に鋭く突出する。花期は 5~6 月。花は白色で、花茎の上部に多数つき総状花序をなす。苞は線状披針形で花よりも長い。唇弁は長楕円形で長さ 1.4 cm、基部の両側に突起がある。距は細い筒形の帯緑白色で長さ 3~4 cm、下垂する。近縁種のミズチドリは唇弁基部に突起がない。

2. 分布

国外では朝鮮半島、中国に分布する。国内では北海道、本州、四国、九州に、県内では西部、中部、東部、伊豆に分布する。

3. 生育環境

暖温帯の山地で日当たりがよく湿った草地に生育する。

4. 生育状況

県内に広く分布していたが減少して産地は少ない。

5. 減少の主要因と脅威

園芸目的による採取 (41) が主要因である。周囲の草本と高木による被陰 (71) も脅威である。またシカによる食害 (52-1) も増えている。

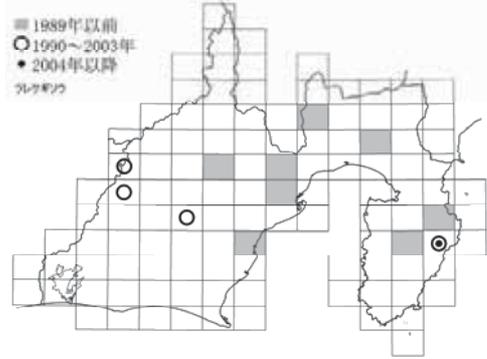
6. 保護対策

生育地を被陰している樹木を伐開して光条件を改善する。遷移を抑制する除草も効果的である。

(宮崎一夫)



浜松市 1995年6月19日 宮崎一夫



オオヤマサギソウ *Platanthera sachalinensis* F. Schmidt

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

ラン科 Orchidaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧II類 (VU) : 環境省カテゴリ なし]

1. 種の解説

多年草。高さ 35~70 cm。葉は下の 2 個が大きく倒披針状長楕円形で互生し、長さ 5~20 cm。上の葉は 2~7 個あり狭楕円形。花期は 7~8 月。花は淡緑白色。側萼片は卵形で長さ 4~5 mm。唇弁は垂れ下がり全縁の広線形で長さ 4~6 mm、距の入り口に肉質隆起がある。距は細く長さ 10~20 mm。近縁種のオオバナオオヤマサギソウは側萼片が長さ 8 mm、唇弁の奥にある肉質隆起が顕著でない。

2. 分布

国外ではサハリン、台湾に、国内では北海道、本州、四国、九州に分布する。県内では東部、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

温帯から亜高山帯の林床に生育する。

4. 生育状況

中部と西部に点在するが少ない。産量はきわめて少ない。

5. 減少の主要因と脅威

植生遷移 (54) が主要因で、園芸採取 (41) も脅威である。

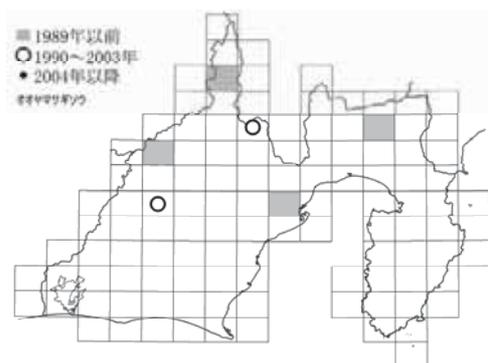
6. 保護対策

産地の森林は皆伐することなく択伐して、急激な生育環境の変化を与えないように配慮することが重要である。

(宮崎一夫)



長野県 2017年7月18日 室伏幸一



オオバナオオヤマサギソウ *Platanthera hondoensis* (Ohwi) K. Inoue

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

ラン科 Orchidaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧ⅠA類 (CR)]

1. 種の解説

多年草。高さ40~70 cm。根茎は紡錘状で数個集まる。葉は下の2個が大きくて互生し、倒披針状長楕円形で長さ5~20 cm。上の葉は2~7個あり狭楕円形。花期は7~8月。花は緑白色。側萼片は卵形で長さ8 mm。唇弁の奥にある肉質隆起が顕著ではない。距は長さ30~40 mm。近縁種のオオヤマサギソウの側萼片は卵形で、長さ4~5 mm、距は長さ15~20 mm、唇弁の奥にある肉質隆起が顕著である。

2. 分布

日本固有種で、本州(関東~近畿地方)に分布する。県内では東部に分布する。

3. 生育環境

温帯から亜高山帯の林縁や草地に生育する。

4. 生育状況

産地は富士山周辺に局限する。産量はきわめて少ない。採取か食害に遭って確認できなくなった産地もある。

5. 減少の主要因と脅威

森林伐採(11)と植生遷移(54)が主要因である。園芸採取(41)も脅威である。

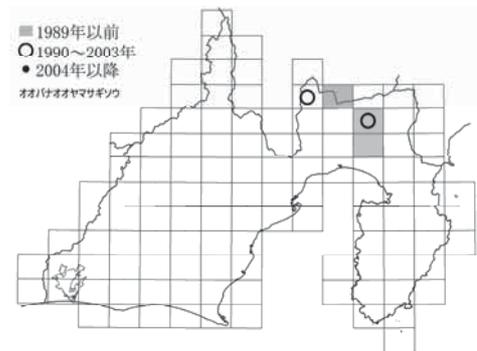
6. 保護対策

産地の森林は皆伐することなく択伐して、急激な生育環境の変化を与えないように配慮することが重要である。

(宮崎一夫)



山梨県 2019年7月28日 室伏幸一



ヤマトキシソウ *Pogonia minor* (Makino) Makino

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②③) 変更なし

ラン科 Orchidaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。高さ10~20 cm。葉は中上部に1個つけ、やや厚く肉質の長楕円形で長さ3~7 cm。苞葉は狭楕円形。花期は6月。花は茎頂に1個つけ、帯紅白色で上向きにわずかに開く。背萼片は線状披針形で長さ12 mm。唇弁は側花弁よりも短く長楕円形で3裂して、中裂片は肉質の毛状突起が密生する。近縁種のトキシソウは唇弁が側花弁よりも長い。

2. 分布

国外では朝鮮半島、台湾、中国に、国内では北海道、本州、四国、九州に分布する。県内では伊豆、東部、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

暖温帯の丘陵地の日当たりがよい、半裸地状の痩せて乾いた疎草地に生育する。

4. 生育状況

産地は県内に広くやや多い。産量はやや多い。

5. 減少の主要因と脅威

植生遷移(54)が主要因で、園芸採取(41)も脅威である。

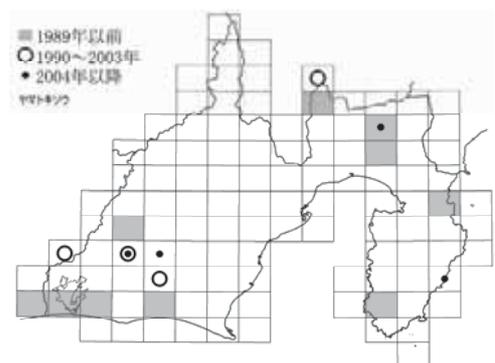
6. 保護対策

植生遷移を抑制して、半裸地状態の自然環境を維持管理することが重要である。

(宮崎一夫)



浜松市 2017年6月1日 宮崎一夫



マツラン *Gastrochilus matsuran* (Makino) Schltr.

(=ベニカヤラン)

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②③) 変更なし

ラン科 Orchidaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)]

1. 種の解説

多年生の着生植物。根は太糸状で樹皮に着生し下垂する。葉は常緑の厚い角質で互生して2列生し長さ1~2 cm、暗紫色の斑紋がある。花期は5~6月。花序は葉腋から伸びて、花を1~4個つける。花は径6~9 mm、淡黄緑色で紅紫色の細点がある。唇弁は基部が囊状にふくらむ。近縁種のカヤランは唇弁の基部に囊がない。

2. 分布

国外では朝鮮半島に、国内では本州(岩手県以南の太平洋側)、四国、九州に分布する。県内では西部に分布する。

3. 生育環境

深山の雲霧がかかる苔むした巨樹の幹や枝に着生する。

4. 生育状況

産地は西部にあり少ない。株数は少ない。採取のためか手の届く位置にはほとんど生育していない。

5. 減少の主要因と脅威

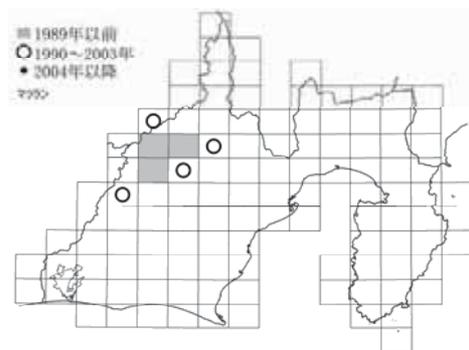
森林伐採(11)が主要因である。強風や遷移による倒木(54)も脅威である。

6. 保護対策

産地の自然林は森林伐採することなく保全することが必要である。(宮崎一夫)



静岡市 2003年4月10日 杉野孝雄



モミラン *Gastrochilus toramanus* (Makino) Schltr.

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②③) 変更なし

ラン科 Orchidaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)]

1. 種の解説

樹木に着生する多年草。高さ1~2 cm。茎は樹幹上を這い長さ5~10 cm。葉は2列生して長楕円形で3脈あり長さ5~11 mm、暗紫色の斑点がある。花期は3~4月。花序は腋生して、黄緑色の花を1~6個つける。萼は長さ2.5~3.5 mm。唇弁は白色で扁円形、縁に不規則な細かい波状鋸歯があり、中央から基部に短毛を密生して、基部は円柱形で長さ4 mmの距となる。近縁種のマツランは唇弁の基部が囊状にふくらむ。

2. 分布

日本固有種で、本州(宮城県以西)、四国、九州に分布する。県内では西部に分布する。

3. 生育環境

暖温帯の雲霧が発生する樹幹に着生する。

4. 生育状況

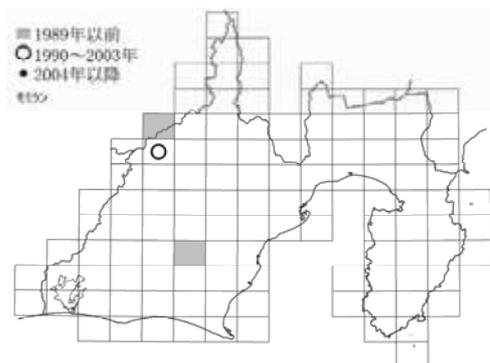
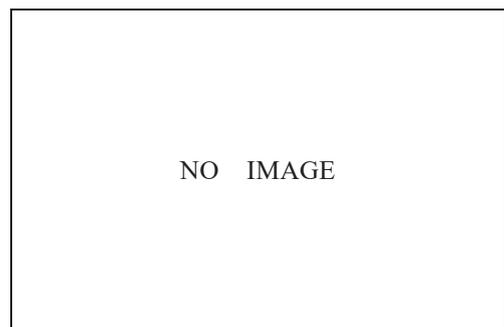
産地は西部にあり少ない。産量は少ない。樹幹の高い位置に生育し確認が困難である。

5. 減少の主要因と脅威

森林伐採(11)が主要因である。園芸採取(41)も脅威である。

6. 保護対策

着生している樹木だけでなく、生育地の森林を広く保全することが重要である。(宮崎一夫)



ムカデラン *Cleisostoma scolopendrifolius* (Makino) Garay

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②③) 変更なし

ラン科 Orchidaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)]

1. 種の解説

樹木に着生する多年草。高さ0.5~1 cm。茎はまばらに分枝して白色の太い根を出す。葉は多肉な偏円柱形で1溝があり長さ6~10 mm、2列に互生する。花期は6~8月。花は葉の反対側から1花を出して淡紅紫色で径9 mm。萼片は楕円形で長さ2 mm。唇弁は白色の肉質で先端が3裂して側裂片は耳状、中裂片は三角状である。近似種のクモランは多肉な葉状の根を放射線状に広げる。

2. 分布

国外では朝鮮半島、韓国(済州島)、中国、国内では本州(関東地方以西)、四国、九州に分布する。県内では東部、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

暖温帯の山地の日当たりのよい岩上や樹幹に着生する。

4. 生育状況

産地は主に西部にあるが少ない。産量は小群生する。垂直な岩壁に着生して密生するが開花株は少ない。

5. 減少の主要因と脅威

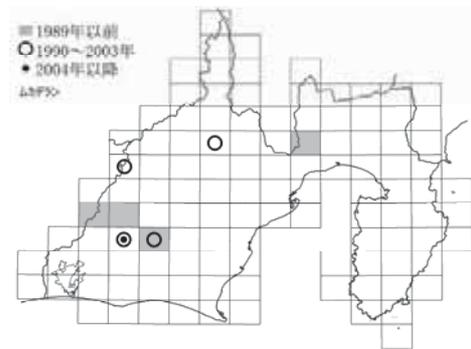
植生遷移による樹冠の被陰(54)が主要因である。園芸採取(41)も脅威である。

6. 保護対策

生育地の保護と園芸採取を防ぐために、産地情報の公表には慎重な配慮が必要である。(宮崎一夫)



浜松市 1992年8月16日 宮崎一夫



キバナノショウキラン *Yoania amagiensis* Nakai et F. Maek.

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

ラン科 Orchidaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧ⅠB類 (EN)]

1. 種の解説

菌従属栄養の多年草。高さ20~30 cm。根茎は太く、イモ状である。花期は6~7月。太い黄褐色の10 cm程度の茎をあげ、6~15花をつける。花も黄褐色で子房と茎までの長さ5~8 cm。花被は離生し、卵状楕円形で円頭。唇弁は白色。花後、株は枯れる。

2. 分布

日本固有種で、本州(関東~中部地方)、四国、九州に分布する。県内では伊豆、東部、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

暖帯から温帯の腐植質の多い林下、谷筋などに発生する。自然度の高い林、放置竹林、廃材集積所などに多い。

4. 生育状況

各地に広く点在する。ごく少数散生する所と群生する所がある。

5. 減少の主要因と脅威

山林伐採(11)、植生の遷移(54)、乾燥化(71)があげられる。

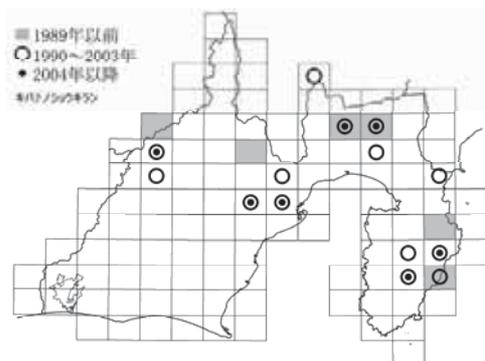
6. 保護対策

毎年発生する場所は、環境を改変することは避けたい。

(西口紀雄)



静岡市 2014年6月24日 西口紀雄



カキツバタ *Iris laevigata* Fisch.

(=カッコバナ)

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②③) 変更なし

アヤメ科 Iridaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

多年草。高さ40~70 cm。ノハナショウブに似るが、葉は中肋が不明。巾2~3 cm。花期は5~6月。花は青紫色、径12 cm、外片の弁部は垂れ、爪部に網斑はなく、単純に白又は淡黄色。内片は立ち倒披針形で少し尖り6 cm、葯は白色。根茎は分岐して繊維質に覆われる。

2. 分布

国外では朝鮮半島、中国、シベリア東部、サハリンに、国内では北海道、本州、四国、九州に分布する。県内では伊豆と西部に分布する。

3. 生育環境

暖帯、温帯の池沼、用水路などに生育する。ハナショウブ、アヤメと本種の3種の中で、本種が最も水を好む。

4. 生育状況

伊豆市、磐田市、浜松市北区三ヶ日町、引佐町などに生育する。ヨシなどと競合して、衰退している所もある。

5. 減少の主要因と脅威

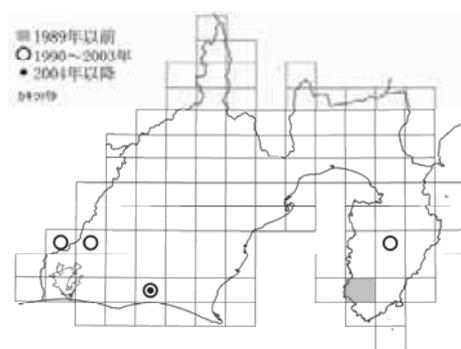
生育地である、池周辺の山林伐採(11)や植生遷移(54)による競合など、生育環境の変化の影響を受けている。

6. 保護対策

生育地を管理することで、生育に適する条件に整えることが必要である。
(西口紀雄)



磐田市 2012年5月20日 内藤宇佐彦



ミズアオイ *Monochoria korsakowii* Regel et Maack.

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②③) 変更なし

ミズアオイ科 Pontederiaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

一年草。高さ30~70 cm。茎は横に這う根茎となり、斜上して葉を束生する。葉身は心形で、長さ5~20 cm、全縁で光沢がある。花期は8~10月。花茎は葉より高く伸び、上方に10~20個の花を総状につける。花は1日花で、数個ずつ咲く。花被片は青紫色で長さ15~20 mmの楕円形である。

2. 分布

国外では東アジアに、国内では北海道、本州、四国、九州に分布する。県内では中部、西部に分布する。

3. 生育環境

池沼や水田、水路など。

4. 生育状況

各地に生育していたが、著しく産地が減少している。

5. 減少の主要因と脅威

池沼の埋め立て(12)や植生遷移(54)。耕地整備による水田水路のコンクリート化(15)、水田の乾田化(71)などが減少の主要因である。

6. 保護対策

池沼では、植生遷移の進行を抑え、埋土種子の発芽を促すために定期的に攪乱すること。
(湯浅保雄)



磐田市 2004年8月29日 宮崎一夫



オオミクリ *Sparganium erectum* L. var. *macrocarpum* (Makino) H. Hara

(=アズマミクリ)

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

ガマ科 Typhaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)]

1. 種の解説

抽水性の多年草。高さ 100~150 cm。地下茎はくびれのあ
る塊茎を作り横に這い、先に新苗をつける。葉は水中から
抽出して、2 列生し広線形で断面は三角形である。花期は 6
~8 月。雌雄同株。花茎は分枝して、下部に雌性の頭花を数
個つけ、上部に雄性の頭花を数個つける。集合果は緑色の
球形で径 25~30 mm。果実はドーム状菱形で長さ 8 mm。近
縁種のミクリは果実が倒広卵形で長さ 6 mm。

2. 分布

国外では朝鮮半島、中国に、国内では本州に分布する。
県内では西部に分布する。

3. 生育環境

湧水が流入し、泥土が堆積した小川や池沼に生育する。

4. 生育状況

産地は西部の 1ヶ所に局限する。産量は局所的に小群生
する。大雨や洪水により生育を阻害されることもある。

5. 減少の主要因と脅威

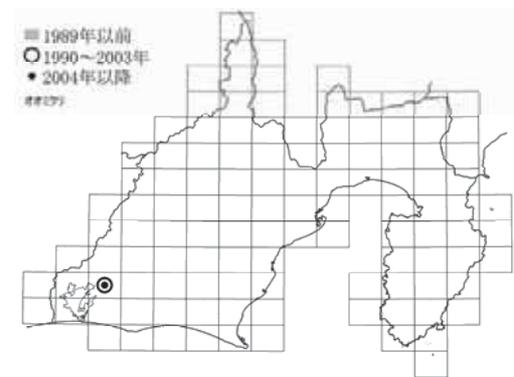
河川や池沼の開発や改修 (12、13) が主要因である。農
薬汚染 (32) も脅威である。

6. 保護対策

県内唯一の貴重な生育地が消失しないように、開発や改
修を回避して保護保全することが重要である。(宮崎一夫)



浜松市北区 2013年6月9日 宮崎一夫



ヤマトミクリ *Sparganium fallax* Graebn.

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

ガマ科 Typhaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

抽水性の多年草。高さ 50~100 cm。地下茎は横に這い、先
に新苗をつける。葉は水中から抽出して、2 列生し線形で、
断面は三角形である。花期は 6~8 月。雌雄同株。花茎は分枝
せず腋上生、下部に雌性の頭花を数個つけ、上部に雄性の頭
花を数個つける。集合果は緑色の球形で径 15~20 mm。果実
は紡錘形で長さ 6 mm。近縁種のナガエミクリは花茎が腋生で
ある。

2. 分布

国外ではビルマ、インドに、国内では本州、四国、九州に
分布する。県内では西部に分布する。

3. 生育環境

低地の湧水が流入し、泥土が堆積した小川に生育する。

4. 生育状況

産地は西部の 1 河川に局限する。産量は多い。流速が早い
ために開花は少ないものの、栄養繁殖で群生している。

5. 減少の主要因と脅威

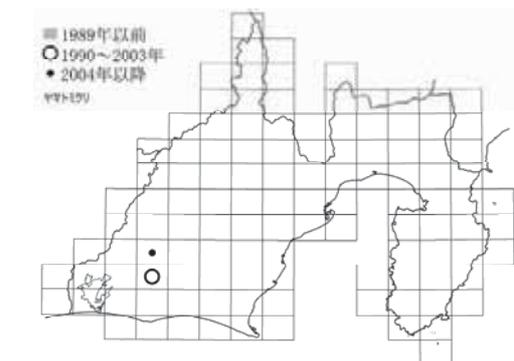
小川や池沼の開発や改修工事 (12、13) が主要因である。
農薬汚染 (32) も脅威である。

6. 保護対策

河川改修をする時には株を一時的に避難させて、改変後に
植え戻すことも保護につながる施行である。(宮崎一夫)



浜松市 2014年7月6日 宮崎一夫



ヒメミクリ *Sparganium subglobosum* Morong

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

ガマ科 Typhaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)]

1. 種の解説

抽水性の多年草。高さ 40~90 cm。地下茎は横に這い、先に新苗をつける。葉は水中から抽出して、2列生し線形で直立して、断面は三角形である。花期は 6~8 月。雌雄同株。花茎は時に分枝し、下部に雌性の頭花を 2 個ほどつけ、上部に雄性の頭花を 5~11 個つける。集合果は緑色の球形で径 10~15 mm。果実は柄がなく倒卵形で長さ 4 mm。近縁種のナガエミクリは果実に短柄がある。

2. 分布

国外では東南アジア、インドなどに、国内では北海道、本州、四国、九州、琉球に分布する。県内では東部と西部に分布する。

3. 生育環境

池沼など水辺の水湿地に生育する。

4. 生育状況

産地は東部と西部に限られている。産量はきわめて少ない。池の縁の高木による被陰を受けて生育が悪化している。

5. 減少の主要因と脅威

ため池の破壊 (12) が主要因で、被陰 (71) も脅威である。

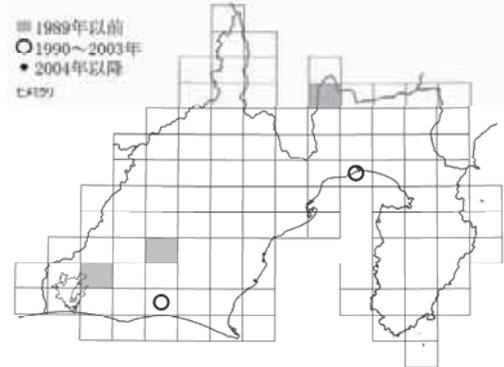
6. 保護対策

減少している水湿地の環境を重要視して、生育環境を保護保全することが重要である。

(宮崎一夫)



磐田市 1996年8月3日 宮崎一夫



シラタマホシクサ *Eriocaulon nudicuspe* Maxim.

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②③) 変更なし

ホシクサ科 Eriocaulaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)]

1. 種の解説

一年草。高さ 20~40 cm。葉は線形で 14~20 cm、幅 1~4 mm。花期は 8~9 月。頭花は球形で径 6~8 mm、全体に白色の短毛が密生する。花は多数かたまってつく。総苞片は広倒卵形で先が円く、無毛、頭花より短い。

2. 分布

日本固有種で、本州 (静岡県、愛知県、岐阜県、三重県) に分布する。県内では西部 (天竜川以西) に分布する。

3. 生育環境

丘陵地の日当たりのよい湧水湿地に生育する。

4. 生育状況

浜松市や湖西市などの限られた湿地に生育する。湧水湿地の消失で産地と個体数は減少している。

5. 減少の主要因と脅威

丘陵地の開発 (工場、住宅、農用地、道路) (23, 24) によって生育地が大きく減少した。園芸採取 (41) も無視できない。

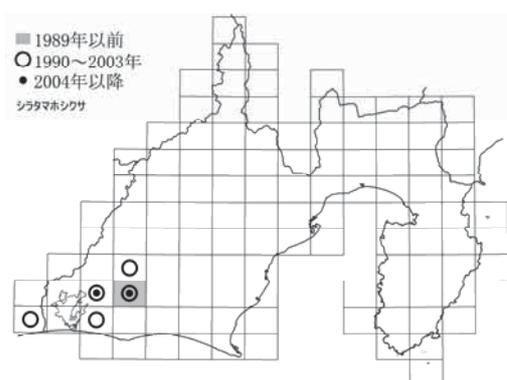
6. 保護対策

周辺の山林まで含めた湧水湿地の保全が重要である。また、園芸採取防止のための対策も必要である。

(内藤宇佐彦)



浜松市 2016年9月10日 宮崎一夫



イトテンツキ *Bulbostylis densa* (Wall.) Hand. -Mazz. var. *capitata* (Miq.) Ohwi
(=クロハタガヤ)

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

カヤツリグサ科 Cyperaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

小型の一年草。高さ5~30 cm。茎は糸状で多数つく。イトハナビテンツキに似るが、花序が頭状に短縮する。果期は8~10月。小穂は披針形で長さ4 mm、鱗片は卵形、栗褐色でやや鋭頭。

2. 分布

国外ではインドネシアに、国内では本州(中部以西)、四国、九州、琉球に分布する。県内では伊豆、東部、西部に分布する。

3. 生育環境

丘陵地や低山地の日当たりのよい荒地や畑、芝地などに生育する。

4. 生育状況

浜松市や森町などに生育する。植生の貧弱な半裸地状の場所で、散発的に生じる。

5. 減少の主要因と脅威

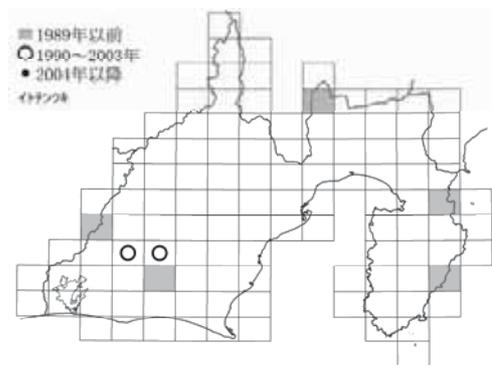
丘陵地の開発(23)による草地の減少や遷移(54)による生育適地の消失がその要因である。

6. 保護対策

ただの荒地と思われる場所もこのような特殊な環境に生える植物にとっては生育適地であるので注意する必要がある。
(内藤宇佐彦)



浜松市 1996年9月23日 内藤宇佐彦



タカネヤガミスゲ *Carex lachenalii* Schkuhr.

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

カヤツリグサ科 Cyperaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

多年草。有花茎は高さ10~30 cm、葉は濃緑色。小穂は接近して3~4個つく。果期は7~9月。小穂は雌雄性で長楕円形、長さ5~10 mmあって暗褐色。果胞は長さ3 mmで淡栗褐色。果胞の背面に長い裂け目がある。

2. 分布

国外では朝鮮半島、北千島~北半球の北地または高山に、国内では北海道(大雪山)、本州(中部以北)に分布する。県内では中部(南アルプス)に分布する。

3. 生育環境

高山帯の草地、岩地、砂礫地に生育する。

4. 生育状況

赤石山脈(荒川岳、小赤石岳)に記録がある。

5. 減少の主要因と脅威

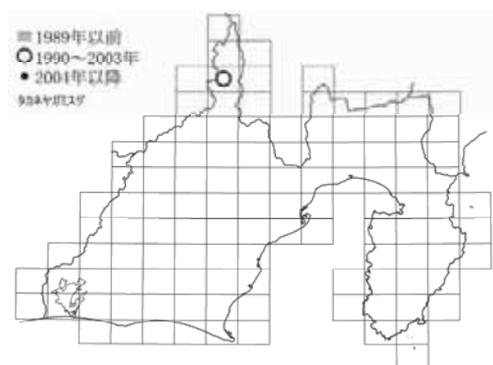
登山者の踏みつけ(51)、シカ食害(52-1)、生育環境の変化による植生の遷移(54)があげられる。

6. 保護対策

シカ食害の影響が大きく、生育地を含む高山稜線にはシカ対策が必要である。
(齊藤 猛)



長野県 2019年8月5日 室伏幸一



ハリガネスゲ *Carex capillacea* Boott var. *capillacea*

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

カヤツリグサ科 Cyperaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリ なし]

1. 種の解説

多年草。高さ 10~30 cm。茎は平滑。葉はかたく幅 1~1.5 mm。果期は 4~6 月。小穂は短く長さ 5~10 mm。雄花部は 3~5 個の花をつける。果胞は広卵形で長さ 2.5~3 mm あり。近縁種のマツバスゲの小穂は長さ 10~20 mm。果胞は長さ 1.5~2 mm

2. 分布

国外では朝鮮半島、中国、インド、オーストラリアに、国内では北海道、本州、九州に分布する。県内では西部に分布する。

3. 生育環境

山中の湧水の流れる湿地に生育する。

4. 生育状況

浜松市北区に生育する。

5. 減少の主要因と脅威

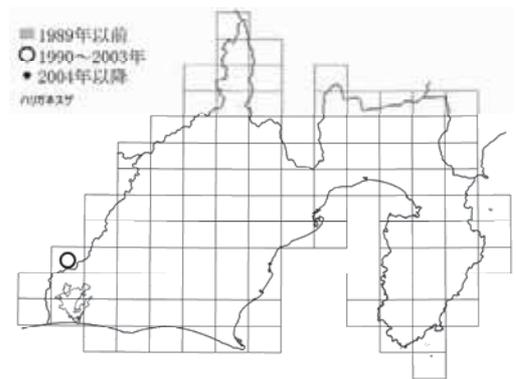
確認された生育地は小規模である。遷移の進行 (54) や森林開発 (11、23) によって消失の危険性が高い。

6. 保護対策

生育する湿地の保護と林道整備の際は注意が必要である。
(内藤宇佐彦)



浜松市 2000年4月29日 内藤宇佐彦



ミヤマジユズスゲ *Carex dissitiflora* Franch.

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

カヤツリグサ科 Cyperaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリ なし]

1. 種の解説

多年草。高さ 40~80 cm。小さい株を作り、鮮緑色でやわらかい。葉は扁平で幅 3~7 mm。果期は 5~7 月。小穂は枝ごとにまばらにつく。雌雄性で上に短い雄花部、下に雌花部。果胞は直立して長さ 9~11 mm、嘴は長く、細脈があって無毛。

2. 分布

日本固有種で、南千島、北海道、本州、四国、九州に分布する。県内では伊豆と東部に分布する。

3. 生育環境

湿った樹林内や林縁。

4. 生育状況

伊豆と富士山周辺に記録がある。県内では稀。

5. 減少の主要因と脅威

森林伐採による土地改変 (11)、土地造成 (23)、道路・林道建設 (24)、シカ食害 (52-1)、生育環境の変化による植生の遷移 (54) が主な要因である。

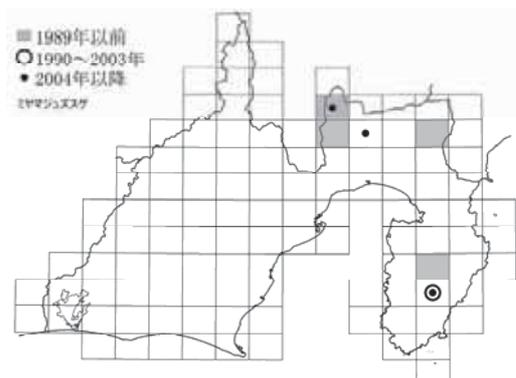
6. 保護対策

森林開発、道路整備などでは、事前の調査で見落としのないうように注意する必要がある。

(斉藤 猛)



富士宮市 2016年6月3日 室伏幸一



オオタマツリスゲ *Carex filipes* Franch. et Sav. var. *rouyana* (Franch.) Kük.

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

カヤツリグサ科 Cyperaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリ なし]

1. 種の解説

多年草。高さは30~70 cm。基部の鞘は淡色。葉の幅は3~6 mm。果期は4~6月。雄小穂は線形で長く、常に長い柄がある。果胞は長さ6~7 mmで無毛、嘴は著しく長い。近縁種のタマツリスゲに似るがやや大きい。

2. 分布

国外では中国に、国内では本州に分布する。県内では東部に分布する

3. 生育環境

山地のやや湿った林縁や林内に生育する。

4. 生育状況

富士宮市に生育する。産地は限られている。生育地での個体数は少ない。

5. 減少の主要因と脅威

もともと稀な植物で、現在の生育地も小規模であり、森林伐採(11)、林道整備(24)によって消失の危険性が高い。

6. 保護対策

森林の保全や開発計画時の事前調査と保存対策が必要である。

(内藤宇佐彦)



富士宮市 2001年6月2日 内藤宇佐彦



サナギスゲ *Carex grallatoria* Maxim.

var. *heteroclita* (Franch.) Kük. ex Matsum.

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

カヤツリグサ科 Cyperaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリ なし]

1. 種の解説

多年草。高さ5~20 cm。基部の鞘は赤色。葉は幅1~2.5 mm。果期は5~6月。雌雄同株で小穂は長さ1~1.5 cm、上半が雄性、下半が雌性である。果胞は長さ2~2.5 mm。近縁種のヒナスゲは雌雄異株で、葉の幅はやや狭い。

2. 分布

国外では台湾に、国内では本州(関東~近畿地方)、四国、九州に分布する。県内では伊豆、東部、中部に分布する。

3. 生育環境

温帯山地の林内の岩地に生育する。

4. 生育状況

伊豆では天城山の尾根付近の岩の多いところで、少数の個体が生育する。

5. 減少の主要因と脅威

登山客が多い所であり、登山道の荒廃や踏みつけ(51)などによって減少している。

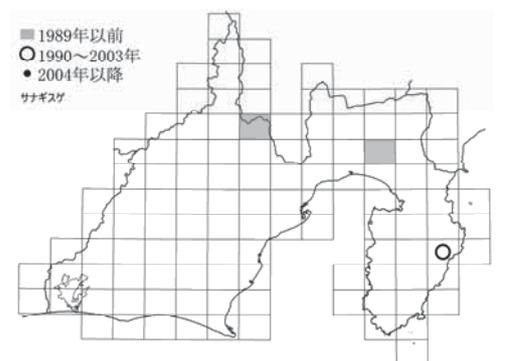
6. 保護対策

登山道の維持管理が必要である。

(内藤宇佐彦)



伊豆市 2001年5月4日 内藤宇佐彦



ホソバヒカゲスゲ *Carex humilis* Leyss. var. *nana* (H. Lév. et Vaniot) Ohwi

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

カヤツリグサ科 Cyperaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。有花茎は低くて高さ3~6 cmで葉の間にかくれる。葉は細く幅0.5~1.5 mm。果期は4~5月。小穂間は平滑、頂小穂は雄性で長さ5~10 mm、側小穂は雌性で長さ5~7 mm、果胞は3 mm、ほとんど無嘴で無毛。近縁のヒカゲスゲの有花茎は高さ10~40 cmで葉よりも高い。

2. 分布

国外では朝鮮半島、中国東北部、シベリア東部に、国内では南千島、北海道、本州、四国、九州に分布する。県内では伊豆、東部、西部に分布する。

3. 生育環境

低山地のやや乾いた疎林の岩地や斜面に生育する。

4. 生育状況

伊豆市、富士宮市、磐田市、浜松市、湖西市などに生育する。生育地での個体数は少ない。

5. 減少の主要因と脅威

生育地の森林伐採(11)や二次林の遷移進行(54)により減少している。

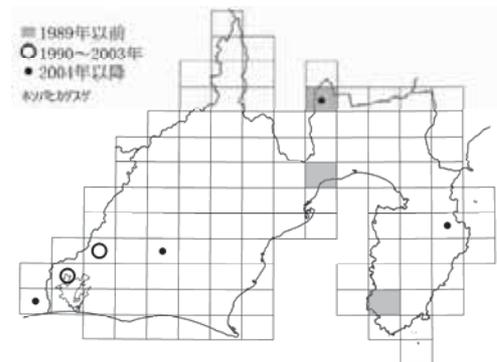
6. 保護対策

生育地の周辺を含めた保護が必要である。

(内藤宇佐彦)



富士宮市 2016年4月19日 湯浅保雄



カラスゲ *Carex macrandrolepis* H. Lév.

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

カヤツリグサ科 Cyperaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。高さ15~40 cm。根茎は長く這い、基部の鞘は暗褐色、繊維を多数つける。葉は幅2~4 mm。果期は4~5月。小穂は3~4個がまばらにつき、頂小穂は雄性で長さ1~3 cm、ほかは雌性で長さ1~1.5 cm。果胞は鈍三稜~ひし形で長さ5~6 mm、微毛があり、先は狭まり長い嘴になる。

2. 分布

国外では朝鮮半島南部、台湾に、国内では本州(東海地方以西)、九州、伊豆諸島に分布する。県内では中部と西部に分布する。

3. 生育環境

海岸近くの林縁や草地に生育する。

4. 生育状況

御前崎市に生育する。産地は限られていて、同市内で小群落が1ヶ所確認されたに過ぎない。

5. 減少の主要因と脅威

海岸林伐採(11)、草地の開発(16)、道路整備(24)などが減少の要因である。

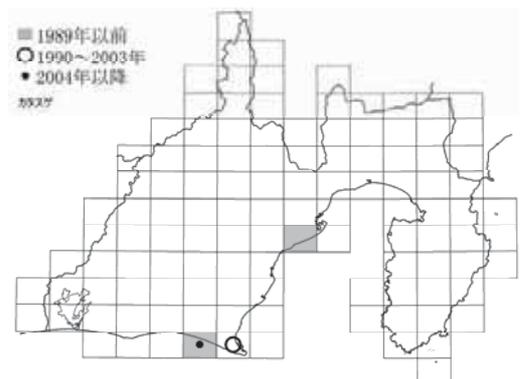
6. 保護対策

スゲ類は多数あり分類が難しい。保護上重要な種の見落とさないように気をつけたい。

(内藤宇佐彦)



御前崎市 2016年4月24日 内藤宇佐彦



サワヒメスゲ *Carex mira* Kük.

(=サワヒナスゲ)

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

カヤツリグサ科 Cyperaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。高さは20~40 cm。基部の鞘は褐色から赤褐色。葉は幅1~2 mm。果期は4~5月。頂小穂は雄性で長さ1.5~2 cm、黒赤褐色、側生の小穂は雌性で長さ0.5~1 cm、柄がなく長楕円形で1~3個あり、互いに接続してつく。果胞は長さ3~3.5 mmで圧毛がある。

2. 分布

国外では朝鮮半島に、国内では本州(静岡県以西)、四国、九州(宮崎県)に分布する。県内では西部に分布する。静岡県は分布の東限自生地である。

3. 生育環境

川岸に生育するが、県内では低山地の草地に生育する。

4. 生育状況

浜松市北区に生育する。産地は限られて生育地での個体数は少ない。

5. 減少の主要因と脅威

もともと稀な植物であり、さらに草地の遷移進行(54)で今後も減少する危険性が高い。

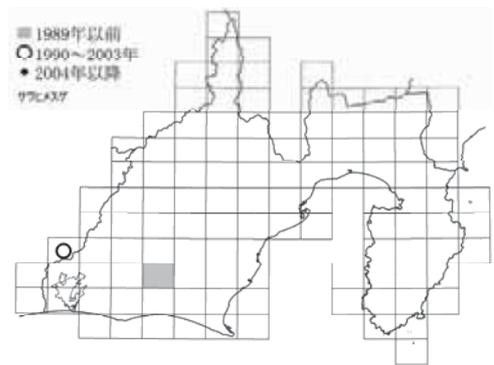
6. 保護対策

低山地の草地の保護が必要である。確認された生育地は他にも希少な草地性植物が生育しており、エリア全体を保全することが重要である。
(内藤宇佐彦)



©2020 U.Naito

浜松市北区 1996年4月14日 内藤宇佐彦



キシウナキリ *Carex nachiana* Ohwi

(=キシウナキリスゲ)

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

カヤツリグサ科 Cyperaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)]

1. 種の解説

多年草。高さ80~120 cm。基部の鞘は濃褐色、繊維状に細裂する。葉は硬く、幅2.5~4 mm。果期は9~10月。小穂は1節に2~3個つき、ときに枝分かれして長さ1~3 cm、全て雌雄性で雄花部は短い。果胞はまばらにつき、長さ3.5~4 mmで、細脈が多数あり、縁にだけ小毛がある。

2. 分布

国外では中国に、国内では本州、四国、九州に分布する。県内では西部に分布する。

3. 生育環境

海岸に近い丘陵地や低山地の林内に生育する。

4. 生育状況

産地は限られていて、浜名湖周辺に生育する。

5. 減少の主要因と脅威

丘陵地の開発(23)や山林の伐採(11)が減少の主要因である。

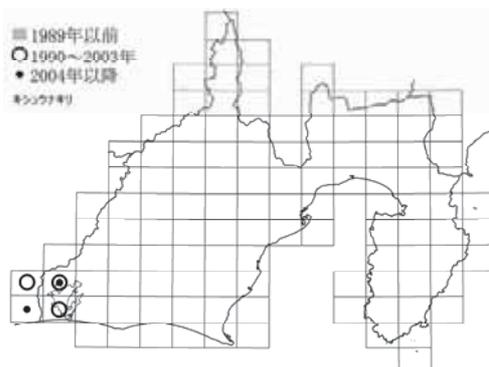
6. 保護対策

丘陵地や低山地の谷間や周辺の山林の保護が必要である。
(内藤宇佐彦)



©2020 U.Naito

湖西市 2014年10月17日 内藤宇佐彦



スルガスゲ *Carex omurae* T. Koyama

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

カヤツリグサ科 Cyperaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧ⅠB類 (EN)]

1. 種の解説

多年草。高さ15~20 cm。オクノカンスゲに似るが匍匐枝はない。基部の鞘は暗紫褐色。葉は3~5 mm、縁に逆小歯がある。果期は6月。頂小穂は雄性で長さ1.5~3 cm、側小穂は雌性で長さ1~2 cm。果胞は長さ3~3.5 mm、まばらにつき、無毛でその先は浅い歯のある嘴になる。

静岡市が基準産地である。和名は産地に由来する。

2. 分布

日本固有種で、本州（静岡県、山梨県、長野県）に分布する。県内では中部に分布する。2004年版では本川根町の分布が記録されたが、標本の再同定の結果、ヒメカンスゲとされた。

3. 生育環境

山地の林内に生育する。

4. 生育状況

静岡市に生育する。生育地は限られていて減少傾向がみられる。

5. 減少の主要因と脅威

山林伐採 (11) や林道整備 (24) が脅威である。

6. 保護対策

生育地である森林の保全が重要である。 (内藤宇佐彦)



静岡市葵区 2017年5月27日 内藤宇佐彦



エゾツリスゲ *Carex papulosa* Boott

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) : 変更コード4

カヤツリグサ科 Cyperaceae

[2004年版カテゴリ 要注目種 (N-I 現状不明) : 環境省カテゴリ なし]

1. 種の解説

多年草。高さ30~50 cm。基部の鞘は白色で脈が緑色。葉は幅3~7 mmで灰緑色を帯びる。果期は5~7月。小穂は2~3個、頂小穂は雄性で長さ1.5~3 cm、長い柄がある。側小穂は雌性で長さ1~2 cm、長い柄があつて下垂する。果胞は長さ5~6 mmで細突起があり、広卵形で長い嘴になる。

2. 分布

国外では朝鮮半島、ウスリーに、国内では北海道、本州（中部以北）、九州に分布する。県内では東部に分布する。

3. 生育環境

温帯山地の湿原に生育する。

4. 生育状況

富士宮市に生育する。産地は限られている。前回調査以後、現存が確認された。

5. 減少の主要因と脅威

湿原の乾燥化や遷移進行による被陰 (54) で減少傾向にある。

6. 保護対策

生育湿地の保全と草地の維持管理が重要である。

(内藤宇佐彦)



富士宮市 2011年5月5日 内藤宇佐彦



ジングウスゲ *Carex sacrosancta* Honda

(=ヒメナキリスゲ)

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

カヤツリグサ科 Cyperaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリ 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

多年草。高さ 20~40 cm。基部の鞘は褐色。葉は硬く、幅 1.5~3 mm。果期は 9~10 月。小穂は 4~6 個で長さ 1~3 cm、まばらに雌花をつけ、上方に短く雄花がつく。果胞は長さ 4 mm ほど、楕円形で脈上にまばらに小刺毛があり、嘴はやや長い。やや繊細でナキリスゲに似る。

2. 分布

国外では台湾に、国内では本州 (伊豆以西)、四国、九州に分布する。県内では伊豆と西部に分布する。

3. 生育環境

低山地の林内や林縁に生育する。

4. 生育状況

浜松市北区などに生育する。産地は限られて生育地での個体数は少ない。

5. 減少の主要因と脅威

もともと産地の少ない植物であり、さらに林道拡幅 (24)、山林の伐採 (11) で減少する傾向にある。

6. 保護対策

林道脇やその近くに生育しているため、道路工事の際には注意が必要である。

(内藤宇佐彦)



©2020 U.Naito
浜松市浜北区 2017年10月1日 内藤宇佐彦



オノエスゲ *Carex tenuiformis* H. Lév. et Vaniot

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

カヤツリグサ科 Cyperaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)]

1. 種の解説

多年草。高さ 15~40 cm。葉は幅 2.5~4 mm。果期は 6~8 月。小穂はまばらに 2~4 個つき、頂小穂は雄性で長さ 1~1.5 cm、柄があって抽出。側小穂は雌性で長さ 1~2.5 cm、長い柄がある。果胞は卵状紡錘形で、長さ 3~4.5 mm、長い嘴になり縁はざらつく。

2. 分布

国外では朝鮮半島、中国東北部、ロシア (サハリン、北クリール、シベリア東部)、国内では南千島、北海道、本州 (中・北部) に分布する。県内では中部 (南アルプス) に分布する。

3. 生育環境

高山帯の砂礫地や草地に生育する。

4. 生育状況

南アルプスに点在する。個体数は少ない。

5. 減少の主要因と脅威

植生の遷移 (54) と登山者の踏みつけ (51) の影響を受けている。

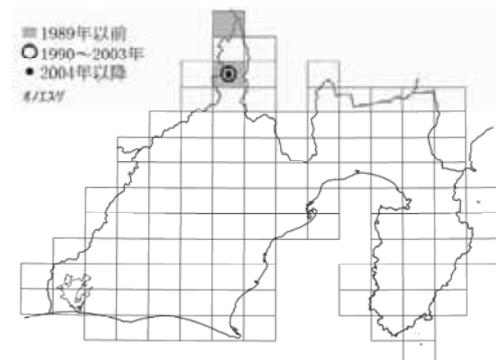
6. 保護対策

登山道からのみだしを防ぎ、踏みつけや生育環境に影響を与えないような対策が重要である。

(内藤宇佐彦)



©2020 K.Murofushi
静岡市 2018年7月26日 室伏幸一



ヌイオスゲ *Carex vanheurckii* Müll. Arg.

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

カヤツリグサ科 Cyperaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)]

1. 種の解説

多年草。高さ 10~40 cm。基部の鞘は赤紫色で縦の繊維に分解する。葉の幅 2 mm 以下。果期は 7~8 月。頂小穂は雄性で長さ 1~2 cm、側小穂は雌性で長さ 4~7 mm。果胞は長さ 2.5~3 mm、上から見て円い。ヒメスゲによく似ているが、雄小穂が雌小穂よりも著しく長いこと (1 cm 以上) で区別できる。

2. 分布

国外ではシベリア東部からサハリン、千島列島に、国内では北海道、本州 (中部以北) に分布する。県内では中部 (南アルプス) に分布する。

3. 生育環境

高山帯の岩礫地、砂礫地、草地に生育する。

4. 生育状況

赤石山脈 (荒川岳、東岳、千枚岳、赤石岳) に記録がある。

5. 減少の主要因と脅威

登山者の踏みつけ (51)、シカ食害 (52-1)、生育環境の変化による植生の遷移 (54) が主要因である。

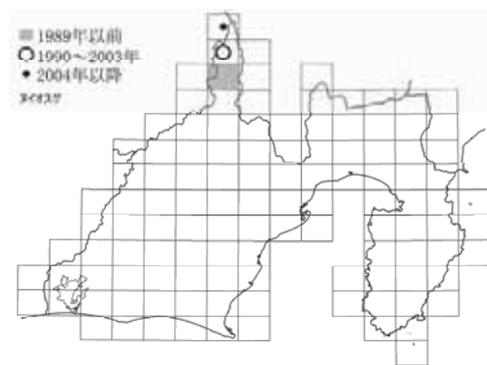
6. 保護対策

シカ食害の影響が大きく、生育地を含む高山稜線にはシカ対策が必要である。

(齊藤 猛)



長野県 2018年7月14日 室伏幸一



オニナルコスゲ *Carex vesicaria* L.

(=ホソボナルコスゲ)

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

カヤツリグサ科 Cyperaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。高さ 30~100 cm。地下匍枝があり、基部の鞘は血紫色で少し糸網がある。葉の幅 3~6 mm。果期は 6~8 月。上方 2~3 個の小穂は雄性で線形、長さ 3~5 cm。下方の 2~3 個は雌性で短い円柱形、長さ 3~7 cm。果胞は長さ 6~8 mm、上方はやや急な中位の嘴となる。

2. 分布

国外では北半球の温帯域に、国内では北海道、本州、九州に分布する。県内では伊豆と東部に分布する。

3. 生育環境

湿地。

4. 生育状況

浮島沼の保全地区ではまだ健在であるが、一碧湖では見られなくなった。

5. 減少の主要因と脅威

湿地の開発 (15) と植生の遷移 (54) が減少の主要因である。

6. 保護対策

湿地の保全とその管理。

(湯浅保雄)



伊東市 2003年5月16日 内藤宇佐彦



コツブヌマハリイ *Eleocharis parvinox* Ohwi

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-②) 変更なし

カヤツリグサ科 Cyperaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)]

1. 種の解説

多年草。高さ30~60 cm。秆は丸くて平滑、太さ1~2 mm。果期は7~10月。小穂は楕円形から広楕円形。長さ5~15 mm、太さ3~4 mm。瘦果は倒卵形で長さ1~1.2 mm。刺針状花被片は4個。やや硬く、長さは瘦果の約3倍ある。柱基は三角形で、その幅は瘦果の幅の半分以下である。

2. 分布

日本固有種で、本州の関東地方と東北地方に分布する。県内では中部に分布する。

3. 生育環境

池沼や川岸の湿地。

4. 生育状況

静岡市の麻機遊水地で確認されたが、植生遷移が進み個体数が非常に少なくなっている。

5. 減少の主要因と脅威

植生の遷移 (54) が減少の主要因である。

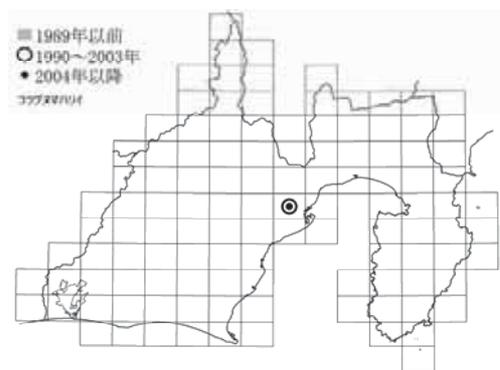
6. 保護対策

生育場所を定期的に攪乱すること。

(湯浅保雄)



静岡市 2019年6月29日 室伏幸一



ヒゲハリスゲ *Kobresia myosuroides* (Vill.) Fiori

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

カヤツリグサ科 Cyperaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

小型の多年草。高さ10~25 cm。匍枝がなく、密な小株をつくる。基部の鞘は幅が広くて光沢あり暗栗褐色、茎は細くて直立し、やや多数つく。葉は糸状で直立し、茎とほぼ同長。果期は7~8月。穂状花序は線形で長さ1.5~3 cm、頂小穂は雄性、側小穂は雌雄の小穂が対になってつく。果胞は完全に合着しないため果実の一部が露出する。

2. 分布

国外では千島列島、朝鮮半島から北半球 (ヨーロッパ、アジア、北アメリカ) の高山に、国内では北海道、本州 (中部) に分布する。県内では中部 (南アルプス) に分布する。

3. 生育環境

高山帯の岩地、草地で、主に高山帯の風衛地に生育する。

4. 生育状況

赤石山脈 (熊の平、間ノ岳、農鳥岳、塩見岳、荒川岳、東岳、赤石岳) に記録がある。荒川岳、東岳周辺で確認された。

5. 減少の主要因と脅威

登山者の踏みつけ (51)、シカ食害 (52-1)、生育環境の変化による植生の遷移 (54) が主な要因である。

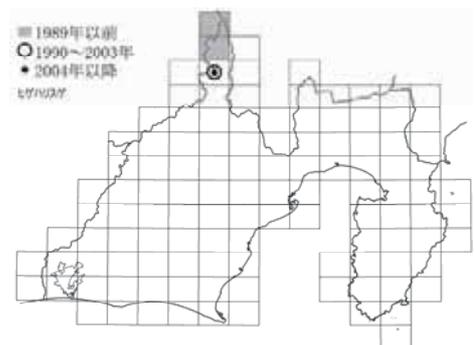
6. 保護対策

シカ食害の影響が大きく、生育地を含む高山稜線にはシカ対策が必要である。

(斉藤 猛)



静岡市 2015年7月30日 室伏幸一



ハタバカンガレイ *Schoenoplectus gemmifer* C. Sato, T. Maeda et Uchino

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更コード 4

カヤツリグサ科 Cyperaceae

[2004年版カテゴリ なし：環境省カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)]

1. 種の解説

沈水または抽水性の多年草。稈の長さは40~100 cm。流水中では稈がたおれて水になびく。果期は7~10月。小穂は卵形で長さ約1 cm、5~20個集まってつく。水中では小穂の基部から無性芽が形成される。カンガレイに似るが、柱頭が2岐(稀に3岐)することで区別される。

近年、新種記載された植物である。

2. 分布

国外では朝鮮半島に、国内では本州(関東以西)、四国、九州に分布する。県内では西部に分布する。

3. 生育環境

湧水のある河川や水路、山から湧水が入るため池などに生育する。

4. 生育状況

浜松市に生育する。産地は限られ、個体数も少ない。

5. 減少の主要因と脅威

河川改修(13)と水質の悪化(31)で減少している。

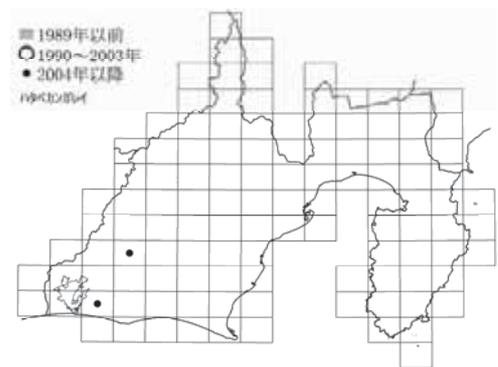
6. 保護対策

水源地の確保と水質の保全、生育場所ではその環境の保護が重要である。

(内藤宇佐彦)



浜松市 2006年9月16日 内藤宇佐彦



カガシラ *Diplacrum caricinum* R. Br.

(=ヒメシンジュガヤ)

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

カヤツリグサ科 Cyperaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)]

1. 種の解説

小型の多年草。高さ5~20 cm。茎は3稜形でときに基部で少し分岐する。果期は7~10月。分花序は短い柄があって腋生し、淡緑色、密に小穂をつける。果は球形で長さ0.6~1 mm、白色、不規則な縦稜がある。

2. 分布

国外では中国南部、台湾、東南アジア、インド、スリランカ、オーストラリアに、国内では本州(千葉県以西)、四国、九州、琉球に分布する。県内では西部に分布する。

3. 生育環境

丘陵地の日当たりのよい湿地に生育する。

4. 生育状況

浜松市浜北区などに生育する。産地は限られている。湧水湿地の消失とともに減少している。

5. 減少の主要因と脅威

丘陵地の開発(23)による湿地の減少や消失、遷移進行(54)が減少の主要因である。

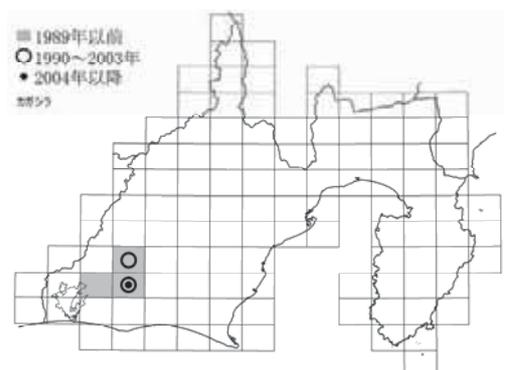
6. 保護対策

周辺部を含めた湿地の保護と遷移抑制のための雑木伐採や除草が必要である。

(内藤宇佐彦)



浜松市 2015年9月12日 内藤宇佐彦



ミヤマハルガヤ *Anthoxanthum odoratum* L. subsp. *nipponicum* (Honda) Tzvelev

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

イネ科 Poaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)]

1. 種の解説

多年草。花期は7~8月。中性小花の護穎は少し大きく、長さ3.5~4 mm、その上方の1/3内外はほとんど毛がない。芒は小穂の外により長く突き出る。ハルガヤによく似ているが、中性小花の護穎を除き全体にまったく毛がなく、苞穎は毛も細点もない。

2. 分布

国外では朝鮮半島北部に、国内では北海道(利尻岳)、本州(南アルプス)、南千島に分布する。県内では中部(南アルプス)に分布しており、静岡県は南限自生地である。

3. 生育環境

高山帯の草地に生育する。

4. 生育状況

赤石山脈(間ノ岳、塩見岳、蝙蝠岳、本谷山、三伏峠、荒川岳、東岳、千枚岳、赤石岳)で記録がある。

5. 減少の主要因と脅威

登山者の踏みつけ(51)、シカ食害(52-1)、生育環境の変化による植生の遷移(54)が主な要因である。

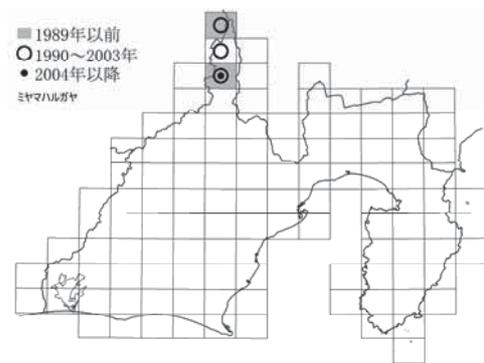
6. 保護対策

シカ食害の影響が大きく、生育地を含む高山稜線にはシカ対策が必要である。

(斉藤 猛)



静岡市 2019年8月1日 室伏幸一



ミギワトダシバ *Arundinella riparia* Honda

(=ミギワガヤ)

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

イネ科 Poaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)]

1. 種の解説

多年草。高さ90 cm。根茎は伸長しない。花期は8~10月。芒が3~3.5 mmあって、軽く屈曲する。近縁種のトダシバは根茎が伸長し、芒がないか短い。

2. 分布

日本固有種で、本州(静岡県、紀伊半島)、四国(徳島県)に分布する。県内では西部に分布する。静岡県は東限自生地である。

3. 生育環境

天竜川流域の増水時には水に流されるような岸壁に生育する。

4. 生育状況

浜松市天竜区に生育する。生育地は限られている。個体数も少ない。

5. 減少の主要因と脅威

河岸工事(13)による生育場所の消失が懸念される。

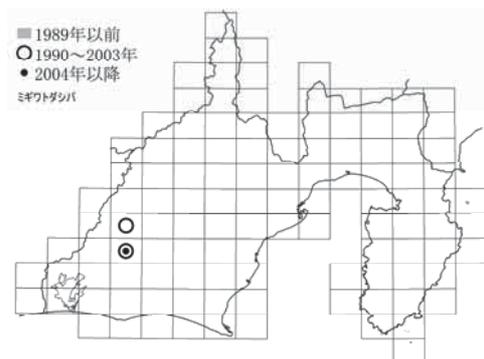
6. 保護対策

生育しそうな場所での河岸工事の際には十分な配慮が必要である。

(内藤宇佐彦)



浜松市 2011年9月23日 内藤宇佐彦



アズマガヤ *Hystrix duthiei* (Stapf) Bor subsp. *longearistata* (Hack.) Baden, Fred. et Seberg

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

イネ科 Poaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。高さ70~120 cm。花序のすぐ下と花軸や節に軟毛が密生する。葉は基部近くでよじれて表裏が逆転する。花期は5~6月。小穂は2個ずつつき、苞穎は2~6 mmの針状でときにないこともある。

2. 分布

国外では朝鮮半島に、国内では北海道、本州、四国、九州に分布する。県内では伊豆、東部、西部に分布する。

3. 生育環境

山地や人里近くの林内に生育する。

4. 生育状況

下田市、西伊豆町、富士宮市、湖西市などに生育する。産地は局所的で生育地での個体数は多いものではない。

5. 減少の主要因と脅威

山林伐採(11)による生育環境の変化や、人里近くのもの土地造成(23)などによって容易に生育地が消失する危険性がある。

6. 保護対策

生育地の環境保全と生育場所を確保することが必要である。

(内藤宇佐彦)



湖西市 2012年5月12日 内藤宇佐彦



ヒナザサ *Coelachne japonica* Hack.

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

イネ科 Poaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

小型の一年草。高さ5~20 cm。葉は長さの割に幅が広く、葉舌はない。花期は8~10月。円錐花序は枝が短く、約10個の小穂からなる。小穂は長さ約2.5 mm。やや似たハイチゴザサは毛状の葉舌がある。

2. 分布

日本固有種で、本州、四国、九州に分布する。県内では伊豆と西部に分布する。

3. 生育環境

丘陵地や山地のため池の岸边などの湿地に生育する。

4. 生育状況

浜松市北区などに生育する。産地は限られていて個体数は少ない。

5. 減少の主要因と脅威

ため池の改修(12)や湿地開発(15)などにより減少した。

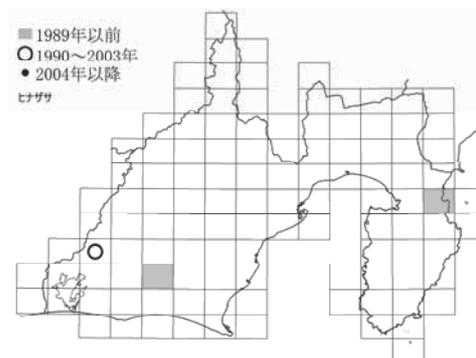
6. 保護対策

生育地の保護には、生育環境に配慮した対策が必要である。

(内藤宇佐彦)



浜松市 1996年9月16日 内藤宇佐彦



ウンヌケモドキ *Eulalia quadrinervis* (Hack.) Kuntze

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

イネ科 Poaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリ 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

多年草。高さ 0.7~1.7 m。稈は束生して直立し、基部はふくらみがなく赤褐色を帯び、これを包む鞘はほぼ無毛である。葉は長さ 10~30 cm。花期は 9~10 月。花序は長さ約 15 cm ある 3~7 個の総からなる。小穂は長さ 5~6 cm。第一苞穎の外側は毛がまばらである。熟すと小穂の集まりが節ごとに切れて小穂をつけたまま落ちる。近似種のウンヌケは稈の基部がふくらんで黄褐色の毛が密生する。

2. 分布

国外では中国、インドに、国内では本州、四国、九州、沖縄に分布する。県内では西部に分布する。

3. 生育環境

丘陵地の乾燥して痩せた半裸地に生育する。

4. 生育状況

産地は西部の数ヶ所にある。産量はそれほど多くはない。

5. 減少の主要因と脅威

土地造成 (23) などの開発が主要因である。長年月では自然遷移 (54) も脅威となる。

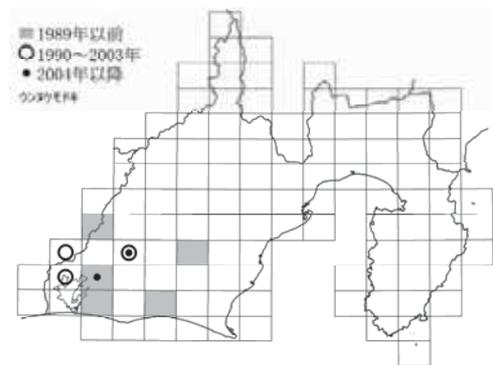
6. 保護対策

裸地でもなく草地でもないこのような半裸地も、種の多様性の一翼を担っているので開発を回避して保全する。

(宮崎一夫)



©2020 K.Miyazaki
浜松市 2014年11月4日 宮崎一夫



ウンヌケ *Eulalia speciosa* (Debeaux) Kuntze

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

イネ科 Poaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)]

1. 種の解説

多年草。稈は高さ 80~120 cm。稈の基部は黄褐色の毛が密生する鞘に囲まれる。葉は長さ 15~40 cm、幅 5~8 mm、ときに基部に長毛があるほかは無毛。花期は 8~10 月。総は数個あって直立し、長さ 12~15 cm、関節があって熟すと折れて脱落する。小穂は披針形で長さ約 5 mm、約 2 cm の芒がある。

2. 分布

国外では朝鮮半島、中国、タイ、インドに、国内では本州 (静岡県西部、愛知県、岐阜県南部、兵庫県)、四国北部、九州北部に分布する。県内では西部に分布する。静岡県は東限自生地である。

3. 生育環境

丘陵地や山地の日当たりのよい草地に生育する。

4. 生育状況

浜松市などに生育する。多数の個体が確認された場所もある。減少傾向にある。

5. 減少の主要因と脅威

丘陵地の開発 (23) や管理不足 (53) による草地の減少がその要因である。

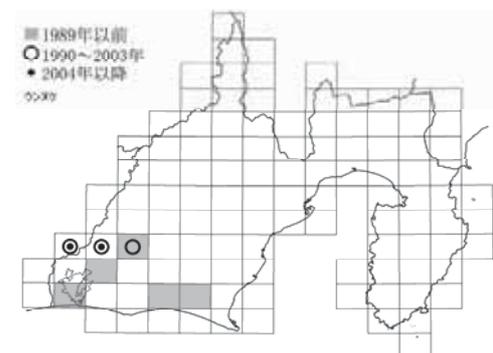
6. 保護対策

生育地である草地の保護と維持管理が重要である。

(内藤宇佐彦)



©2020 U.Naito
浜松市 2015年11月1日 内藤宇佐彦



ハネガヤ *Stipa pekinensis* Hance

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) : 変更コード 4

イネ科 Poaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-I 現状不明) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。高さ 80~150 cm。稈は直立し、分岐しない。花期は 8~9 月。円錐花序は大きく、枝は開出して輪生状となる。小穂は 1 小花からなり、長さ 1 cm、護穎に長さ 2~2.5 cm の長い芒がある。

2. 分布

国外では中国北部、サハリン、極東シベリア、千島に、国内では北海道、本州に分布する。県内では東部に分布する。

3. 生育環境

温帯山地の湿った草地に生育する。

4. 生育状況

富士宮市に生育する。生育地は限られ、個体数は少ない。温帯性の植物で長野県では珍しいものではないが、本県では稀な植物である。近年、現存が確認された。

5. 減少の主要因と脅威

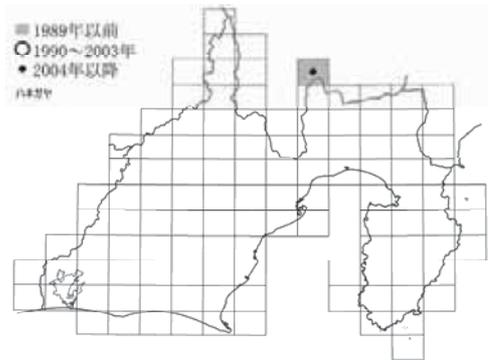
草地の開発 (16) や道路改修 (24) による生育地の消失が懸念される。また、管理放棄 (53) による植生の遷移進行のため生育環境が悪化することも心配である。

6. 保護対策

生育地の保護と、草刈りなど草地の維持管理が必要である。
(内藤宇佐彦)



富士宮市 2015年9月20日 内藤宇佐彦



リシリカニツリ *Trisetum spicatum* (L.) K. Richt.

subsp. *alaskanum* (Nash) Hulthen

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

イネ科 Poaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧II類 (VU) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧II類 (VU)]

1. 種の解説

多年草。高さ 10~30 cm、上方に花序とともに白い軟毛をつける。花期は 7~8 月。花序は密に小穂をつけてほとんど穂状の円柱形をなし、長さ 3~10 cm。小穂は淡黄緑色で、長さ 5~6 mm。護穎の先は深く 2 裂、裂片の先は尖り、裂片の間から芒が出る。芒はよじれて外側に曲がる。

2. 分布

国外では南北両半球の寒帯と熱帯の高山に、国内では南千島、北海道、本州中部に分布する。県内では中部 (南アルプス) に分布する。

3. 生育環境

高山帯の乾いた荒れ地、岩地、草地に生育する。

4. 生育状況

南アルプス (間ノ岳、農鳥岳、塩見岳、小河内岳、蝙蝠岳、三伏峠、荒川岳、東岳、千枚岳、赤石岳、聖岳、上河内岳など) で記録がある。

5. 減少の主要因と脅威

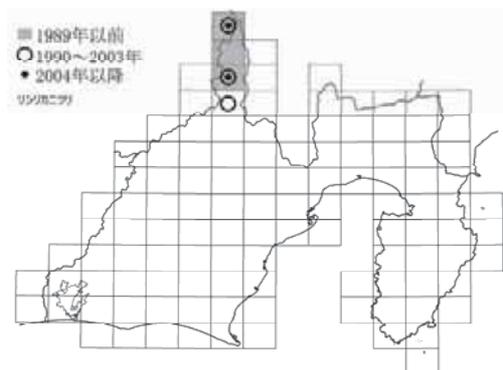
登山者の踏みつけ (51)、シカ食害 (52-1)、生育環境の変化による植生の遷移 (54) が主要因である。

6. 保護対策

シカ食害の影響が大きく、生育地を含む高山稜線にはシカ対策が必要である。
(斉藤 猛)



静岡市 2019年8月22日 室伏幸一



フクジュソウ *Adonis ramosa* Franch.

(=ガンジツソウ)

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②③) 変更なし

キンポウゲ科 Ranunculaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。高さ15~30 cm。葉は互生して3~4回羽状に細裂する。花期は3~4月。葉と花は同時に開く。花は径3~5 cm。花弁と萼片の長さはほぼ等しい。萼片は5~7個。花弁は20~30個。表面に光沢のある黄金色。集合果は倒卵形で長さ12~20 mm。開花後に茎が伸びる。近縁種のミチノクフクジュソウは萼片の長さが花弁の1/2から2/3。

2. 分布

日本固有種で、北海道、本州に分布する。県内では西部に分布する。

3. 生育環境

山地の落葉樹林下で南斜面の砂礫地に生育する。生育地に近い所で田の畦や、畠の周辺にも残存して生育する。

4. 生育状況

産地は天竜区に限定されている。産量は少ない。

5. 減少の主要因と脅威

園芸採取(41)や撮影者の踏圧(51)が主要因である。落葉樹林が伐採され(11)、植林されることも脅威である。

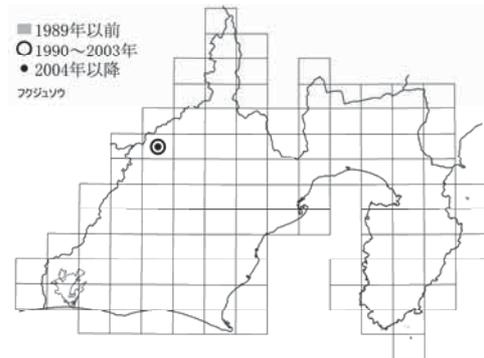
6. 保護対策

落葉樹林の伐採を回避して生育地を保護し、巡視により採取を防止したい。

(宮崎一夫)



浜松市 2005年3月19日 宮崎一夫



カザグルマ *Clematis patens* C. Morren et Decne.

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②③) 変更なし

キンポウゲ科 Ranunculaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

落葉藤本。茎は硬く細長い。葉は夏緑性で1回3出複葉。小葉は狭卵形で長さ3~9 cm。葉柄は長さ2~10 cmで他物にからまる。花期は5月。花は当年枝の頂に単生して径10 cm。萼片は楕円形で8個あり白色または淡紫色で上向きに平開する。瘦果は広卵形で長さ5 mm。園芸種のクレマチスはふつう萼片が5個である。

2. 分布

国外では朝鮮半島、中国に、国内では本州、四国、九州に分布する。県内では西部に分布する。

3. 生育環境

暖温帯の丘陵地から山地の林縁や水湿地に生育する。蛇紋岩地にもよく生育する。

4. 生育状況

産地は西部のみに集中して多い。産量は少ないが、群生している所もある。

5. 減少の主要因と脅威

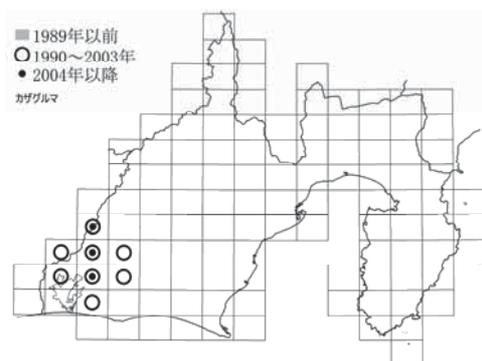
園芸目的の採取(41)が主要因である。植生遷移による高木の被陰(54)、土地造成(23)、道路工事(24)などの開発も脅威である。

6. 保護対策

分布の限られた植物であり、周辺の環境も含めて、自生地の行政的な保護管理が必要である。(宮崎一夫)



浜松市 2006年5月27日 宮崎一夫



ハコネシロカネソウ *Dichocarpum hakonense* (F. Maek. et Tuyama ex Ohwi)

W. T. Wang et P. K. Hsiao

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

キンポウゲ科 Ranunculaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

矮小な多年草。高さ5~20 cm。根茎は短く這い、大きな鱗片をややまばらにつける。茎葉は2個対生し、頂小葉は広菱状卵形、長さ0.4~1.5 cm、あらい鋸歯がある。花期は4~5月。花は径6~10 mm、萼片は白色で、開出またはやや開出する。近縁種のツルシロカネソウは地中を横走する匍枝があり、花は径9~20 mm。

2. 分布

日本固有種で、本州（静岡県、神奈川県）に分布する。県内では伊豆、東部、西部に分布する。

3. 生育環境

山地の沢筋、自然林の林床に生育する。

4. 生育状況

伊豆、東部、西部に点在し、群生地もある。

5. 減少の主要因と脅威

生育地である山林の伐採(11)が脅威である。

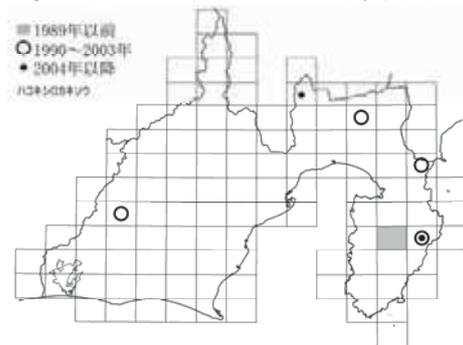
6. 保護対策

生育地である山林の保護が必要である。

(内藤宇佐彦)



伊豆市 2001年5月4日 内藤宇佐彦



ミスミソウ *Hepatica nobilis* Schreb. var. *japonica* Nakai

(=ユキワリソウ)

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②③) 変更なし

キンポウゲ科 Ranunculaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

常緑多年草。高さ5~15 cm。根出葉は束生し長柄がある。葉身は広三角形で3中裂し裂片は尖頭。花のすぐ下に3枚の茎葉がある。花期は2月中旬~3月。花は径1~2 cm、花弁はなく、萼片は6~10個で花弁状、静岡県では白色である。

2. 分布

日本固有変種で、本州（関東地方以西）、四国、九州（福岡県）に分布する。県内では北部を除き全域に分布する。

3. 生育環境

落葉広葉樹林の林床に生育する。

4. 生育状況

富士宮市、浜松市などに生育する。生育地での個体数は少なく、減少傾向が著しい。

5. 減少の主要因と脅威

雑木林の管理放棄(53)による遷移進行、雑木林の消失(11)や園芸採取(41)が減少の要因と考えられる。

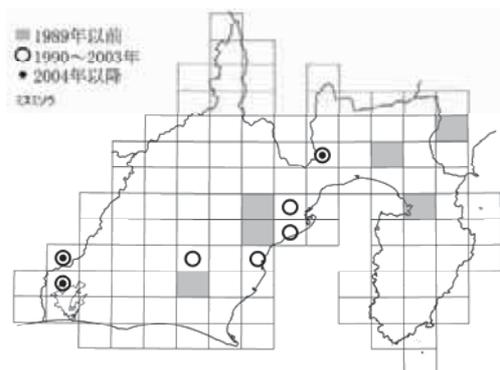
6. 保護対策

自生地の保護と園芸採取や観察者の踏み荒らしを防ぐために産地情報の管理が必要である。

(内藤宇佐彦)



浜松市 2013年2月23日 宮崎一夫



ミシマバイカモ *Ranunculus nipponicus* Nakai var. *japonicus* (Nakai) H. Hara

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

キンポウゲ科 Ranunculaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

沈水性の常緑多年草。茎は2 mほど。沈水葉の葉身は扇形あるいはボンボリ状で長さ0.5~5 cm、3回3出し、幅0.5 mmの糸状裂片に分かれる。浮葉は広倒卵形、長さ0.5~1 cm、3中裂する。花期は5~11月。花は葉腋から単生し、水面または水上に白色の径5~15 mmの花をつける。花弁は5個、広倒卵形で白色。

和名は三島市に由来する。現在、イチョウバイカモ、オオイチョウバイカモとともに1つの変種にまとめられている。

2. 分布

日本固有変種で、国内では北海道(千歳川)、本州(長野県、静岡県)に分布する。県内では東部に分布する。

3. 生育環境

河川や湖沼の湧き水の流水中に沈水して生える。花と浮葉は水面にも出る。茎は千切れて流下する。

4. 生育状況

産地が限られており、県内では柿田川上流部の湧水付近に多く見られる。

5. 減少の主要因と脅威

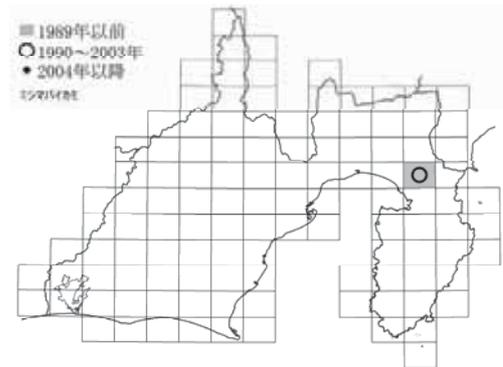
湧水減少(71)と水質汚濁(31)が減少の主要因である。

6. 保護対策

生育地への立ち入り禁止、水質汚濁防止などにより、保全には万全を期したい。栽培による保全が図られている。(湯浅保雄)



清水町 1998年10月29日 杉野孝雄



セツブンソウ *Eranthis pinnatifida* Maxim.

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②③) 変更なし

キンポウゲ科 Ranunculaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

多年草。高さは5~20 cm。塊茎は球形で径0.8~1.5 cm。双子葉植物であるが、子葉は合着して1個である。根出葉は長柄があり単生し、五角状円形で長さ1~5 cm、3全裂する。茎葉は無柄で長さ2~2.5 cm。花期は2~3月。花は茎頂に単生して直径2~2.5 cm、横向きから上向きに開く。萼片はふつう5個あり広楕円形で長さ1~1.5 cm、花弁状に平開して白色。花弁はYの字形に2岐して、橙黄色の蜜腺となる。葯は紫色。

2. 分布

日本固有種で、本州(関東地方以西)に分布する。県内では西部、東部に分布する。

3. 生育環境

低山や丘陵地の林縁や落葉樹林下の草地に生育する。石灰岩地を好む傾向がある。

4. 生育状況

産地は東部と西部にあるが少ない。産量は多い。

5. 減少の主要因と脅威

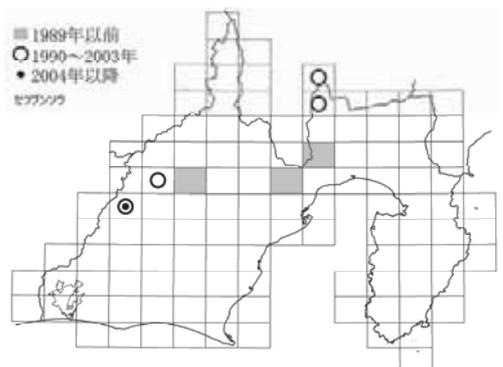
園芸目的の採取(41)が主要因である。撮影者による攪乱や踏圧(51)と植生遷移(54)も脅威である。

6. 保護対策

春一番に観賞できる価値の高い野生植物なので、生育地の保護管理をし、巡視により採取を防ぎたい。(宮崎一夫)



浜松市 2006年2月25日 宮崎一夫



タマカラムツ *Thalictrum watanabei* Yatabe

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②③) 変更なし

キンポウゲ科 Ranunculaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)]

1. 種の解説

多年草。高さ 20~30 cm。根は球形から紡錘形に肥厚する。葉は2回3出複葉、小葉は広卵形で長さ1~3 cm、3浅裂する。花期は5~9月。花序は散房状から複散房状。花には花弁はなく、萼片は倒卵形で長さ2~3 mm、白色で早落性。葯も白色。瘦果は3~6個、長さ3~4 mmで紡錘形、扁平で3脈がある。

2. 分布

日本固有種で、本州(静岡県、近畿)、四国、九州に分布する。県内では西部に分布する。静岡県は北東限自生地である。

3. 生育環境

冷温帯の落葉広葉樹林内の地上や湿った岩上に生育する。

4. 生育状況

産地は限られているが、個体数は少なくない。

5. 減少の主要因と脅威

生育地の山林伐採(11)による環境変化と登山路整備(24)による生育地の破壊が減少の主要因である。

6. 保護対策

生育地の森林の保全と踏みつけ防止が必要である。
(湯浅保雄)



浜松市 1997年7月20日 杉野孝雄



フッキソウ *Pachysandra terminalis* Siebold et Zucc.

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②③) 変更なし

ツゲ科 Buxaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

常緑矮小低木。高さ5~20 cm。茎の下部は根茎状に這い上部は立つ。葉は互生して枝先に集り、菱状卵形で長さ3~8 cm、上部に粗鋸歯がある。花期は3~5月。花穂は茎頂に直立し、上部は雄花がつき、下部に雌花がつく。雄花は4個の花糸が白く太く目立つ。雌花は2個の花柱が白く目立ち外曲する。石果は卵球形で長さ1.5 cm、白熟し花柱が残存する。

2. 分布

国外では中国に、国内では北海道、本州、四国、九州に分布する。県内では東部と中部に分布する。

3. 生育環境

暖温帯山地の林床や林縁に生育する。神社の森に見られるものは植栽個体と思われる。

4. 生育状況

産地は東部に点在するが少ない。産量も少ない。樹冠の被陰により生育が悪化している。

5. 減少の主要因と脅威

森林伐採(11)が主要因である。

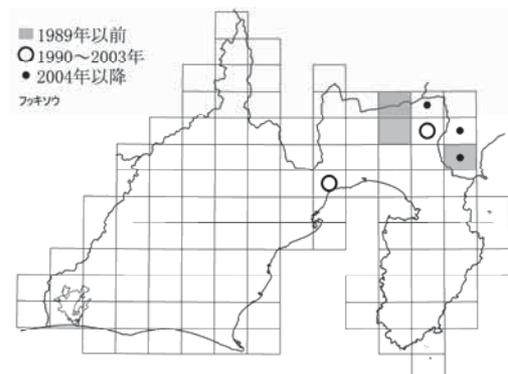
6. 保護対策

伐採を避けて生育地を保全する。

(宮崎一夫)



三島市 2018年3月29日 室伏幸一



コウヤミズキ *Corylopsis gotoana* Makino

(=ミヤマトサミズキ)

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

マンサク科 Hamamelidaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

落葉低木。高さ2~5 m。葉は広卵形で基部は心形、長さ5~11 cm。花期は3月末~4月。花序は3~4 cmで下垂し、花が3~10個つく。花弁は黄色で狭倒卵形、長さ9~11 mm。雄蕊は花弁と同長で葯は赤色である。蒴果は球形で径7~8 mm、無毛。

2. 分布

日本固有種で、本州(山梨県西部、長野県南東部、静岡県以西)、四国、九州に分布する。県内では西部に分布する。

3. 生育環境

日当たりのよい崖地に生育する。

4. 生育状況

浜松市に生育する。産地は限られていて個体数は少ない。現存する生育地でも被陰や、伐採で減少傾向が著しい。

5. 減少の主要因と脅威

農地造成(23)、自然林の伐採(11)、遷移の進行(54)による被陰が減少の要因である。

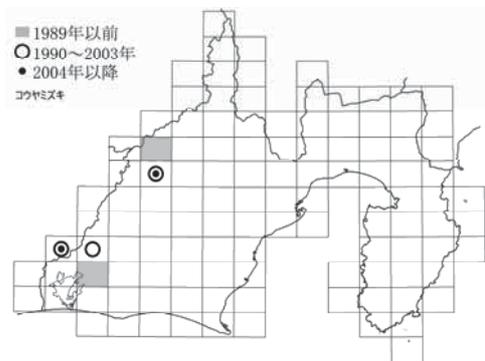
6. 保護対策

産地の限られた植物であり、生育環境に配慮した保護を図りたい。

(内藤宇佐彦)



浜松市 2016年3月21日 内藤宇佐彦



ヤシャビシヤク *Ribes ambiguu* Maxim.

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②③) 変更なし

スグリ科 Grossulariaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

落葉小低木。高さ20~50 cm。樹幹の股に着生し、幹は曲がって分枝する。葉は互生して短枝の先に束生する。葉柄は短毛を密生し、葉身は腎円形で長さ3~5 cm、基部は深心形で3~5浅裂する。花期は4~5月。花柄は関節があり2個の小苞が対生する。花は両生で短枝に1~2個つく。萼は淡緑白色で5深裂し、萼片は花弁のように見える。花弁は萼裂片より小さく緑色または赤紫色で直立する。液果は緑色の球形で長さ7~12 mm、刺毛が密生する。近縁種のザリコミは地生である。

2. 分布

国外では中国に、国内では本州、四国、九州に分布する。県内では伊豆、東部、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

温帯山地のブナやミズナラに着生し生育する。

4. 生育状況

産地は広く各地にある。産量は少ない。

5. 減少の主要因と脅威

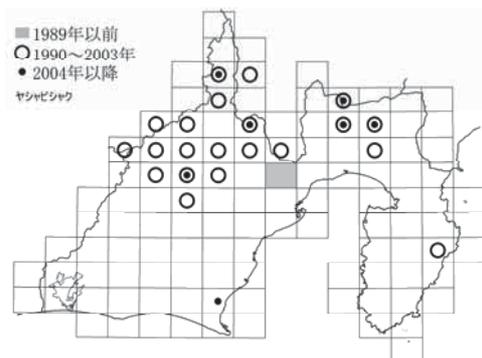
森林伐採(11)が主要因である。園芸採取(41)も脅威である。

6. 保護対策

巨木は伐採しないで保全措置をとる。(宮崎一夫)



富士宮市 2014年5月21日 宮崎一夫



ヤブサンザシ *Ribes fasciculatum* Siebold et Zucc.

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

スグリ科 Grossulariaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

落葉低木。高さ1 m程度。下部からよく分枝する。葉は広卵形、先は円形で長さ2~6 cm、掌状に3~5浅・中裂する。花期は4~5月。雌雄異株。花は束状に側生し、萼片は黄緑色で花弁のように見える。花弁はへら形、長さ0.5 mm。腋果は球形、径7~8 mmで赤く熟す。

2. 分布

国外では朝鮮半島、中国に、国内では本州、四国、九州に分布する。県内では東部と西部に分布する。

3. 生育環境

2次林内や岩礫地に生育する。石灰岩地にも生育する。

4. 生育状況

浜松市北区に生育する。個体数は少ない。

5. 減少の主要因と脅威

県内では生育できる環境が少ない。植生の遷移(54)や石灰岩の採石(17)などで個体数が減少した。また林道拡幅工事(24)での生育地消失の危険性も指摘される。

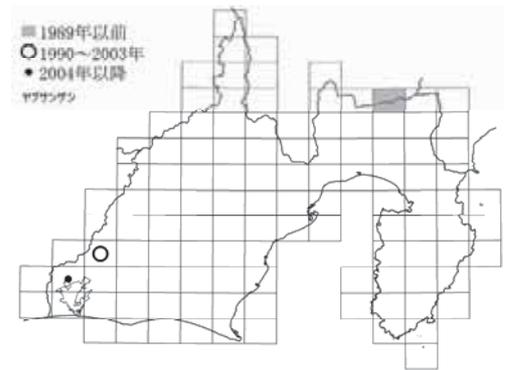
6. 保護対策

生育地の保護と被陰を避けるために付近の他の植物の間伐などが必要である。

(内藤宇佐彦)



©2020 U.Naito
浜松市 2017年4月14日 内藤宇佐彦



ヒトツバショウマ *Astilbe simplicifolia* Makino

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②③) 変更なし

ユキノシタ科 Saxifragaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。高さ10~30 cm。根茎は短く径1 cmで根出葉を束生する。根出葉は長い柄をもつ単葉である、葉身は広卵~狭卵形で、しばしば3浅裂する。長さ3~8 cm、幅2~5 cm。花期は6~8月。花茎はまばらに枝を分ける円錐花序で、白い小さな花を多数つける。花弁は線形で長さ約2.5 mm。雄蕊10本、雌蕊は2個。花軸や花柄には腺毛がある。

2. 分布

日本固有種で、本州(神奈川県、静岡県)に分布する。県内では伊豆、東部に分布する。

3. 生育環境

冷温帯から暖温帯の溪流沿いの湿った岩壁。

4. 生育状況

愛鷹山麓には比較的多く見られるが、減少傾向にある。他の産地の情報はえられていない。

5. 減少の主要因と脅威

園芸採取(41)が減少の主要因である。

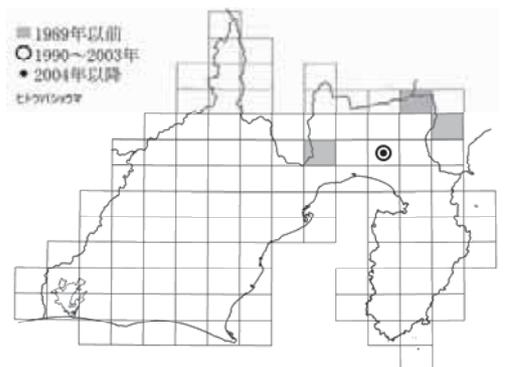
6. 保護対策

産地が限られた希少な植物であることを周知させて、園芸採取を防ぐこと。

(湯浅保雄)



©2020 K.Murofushi
富士市 2019年7月15日 室伏幸一



マツノハマンネングサ *Sedum hakonense* Makino

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②③) 変更なし

ベンケイソウ科 Crassulaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリ絶滅危惧Ⅱ類 (VU)]

1. 種の解説

多年草。茎は基部で分枝し、有花茎と無花茎を密生する。有花茎は長さ5~10 cmで濃紅紫色を帯びる。葉は対生し線形で肉質。長さ1~2.5 cm、幅1~3 mm。花期は7~8月。枝先の集散花序に濃黄色の花を多数つける。花は4数性で萼、花弁は各4個、雄蕊8本、心皮は4個で果時に斜めに開く。

2. 分布

日本固有種で、本州（埼玉県、神奈川県、山梨県、静岡県）に分布する。県内では伊豆、東部、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

冷温帯のブナなどの樹幹に苔とともに着生する。

4. 生育状況

県内の広い範囲に分布するが、個体数は少ない。

5. 減少の主要因と脅威

天然林の伐採 (11) や園芸採取 (41) が減少の主要因である。

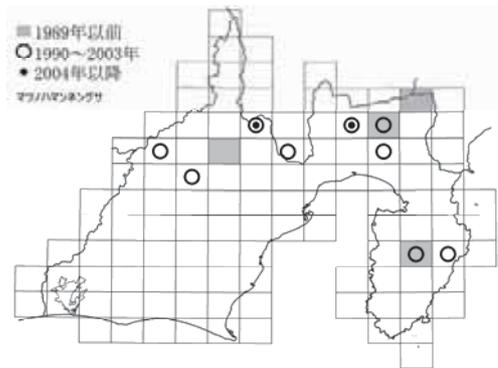
6. 保護対策

天然林の伐採を抑制し、生育環境を保全すること。

(湯浅保雄)



静岡市 1995年7月26日 杉野孝雄



ミヤマトベラ *Euchresta japonica* Hook. f. ex Maxim.

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

マメ科 Fabaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリ なし]

1. 種の解説

常緑半低木。高さ30~60 cm。若い茎は緑色で短毛を密生、後に無毛となる。葉は革質で3小葉からなる。小葉は楕円形で長さ5~9 cm、幅3~5 cm、裏面に伏した短毛を密生する。花期は6~7月。長さ4~15 cmの総状花序に長さ1 cmほどの白色の花を多数つける。果実は楕円形で長さ12~15 cm、幅8~10 mm。黒紫色に熟す。種子は1個。

2. 分布

国外では中国、韓国に、国内では本州（茨城県以西）、四国、九州に分布する。県内では伊豆と西部に分布する。

3. 生育環境

肥沃な林内や谷筋の崩落土壌のところ。

4. 生育状況

個体数は少ないが、まだ伊豆地域にはみられる。西部地域の自生地は前回 (2004年) 調査時にも今回も確認されていない。

5. 減少の主要因と脅威

森林の伐採 (11) と植林が減少の主要因である。また、シカによる食害 (52-1) も脅威である。

6. 保護対策

生育地では環境に変化を与えないよう森林伐採には十分注意すること。

(湯浅保雄)



河津町 2003年1月19日 杉野孝雄

